

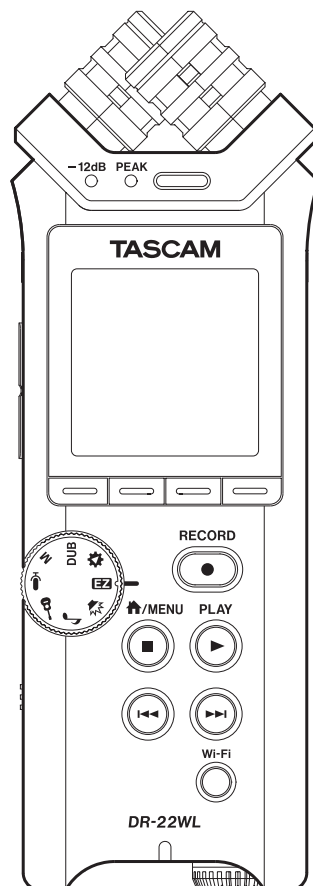
TASCAM

D01244501F

DR-22WL

Linear PCM Recorder

リファレンスマニュアル



目次

第1章 はじめに4	セルフタイマーを使って録音する (SELF TIMER).....24
本機の概要.....4	2種類のフォーマットで録音する (デュアルフォーマット録音).....24
本書の表記.....4	再生音に入力音を重ねて録音する (オーバーダビング).....25
商標および著作権に関して.....5	入力音を重ねるファイルを選択する.....25
microSDカードについて.....5	オーバーダビングを実行する.....25
取り扱い上の注意.....5	録音中にマークを付ける.....26
第2章 各部の名称と働き6	録音中に手でマークを付ける.....26
トップパネル.....6	録音中に自動でマークを付ける.....26
フロントパネル.....6	マークの位置への移動.....27
左サイドパネル.....7	PEAKインジケータ点灯時に自動でマークを付ける.....27
右サイドパネル.....7	録音時間について.....28
ボトムパネル.....7	第5章 ファイルやフォルダーの操作 (ブラウズ画面)29
ホーム画面.....8	ブラウズ画面内のナビゲーション.....29
録音画面.....9	ブラウズ画面内のアイコン表示.....29
メニューの構成.....10	ファイル操作.....29
メニューを使う.....10	フォルダー操作.....30
操作の基本.....11	上位フォルダーに移動するには.....30
第3章 準備12	新しいフォルダーを作る.....30
電源の準備.....12	ファイルをプロテクトする.....31
電源について.....12	マークを全て削除する.....31
単3形電池で使用する.....12	空フォルダーを削除する.....32
ACアダプターで使用する (別売).....12	第6章 再生33
USBバスパワーで使用する.....12	再生する.....33
電源をオンにする / オフ (スタンバイ状態) にする.....13	一時停止する / 停止する.....33
電源をオンにする.....13	早戻し / 早送りをする (サーチ).....33
電源をオフ (スタンバイ状態) にする.....13	再生するファイルを選択する (スキップ).....33
レジューム機能.....13	特殊な再生 (プラクティスマード).....33
言語を選択する.....13	ループ再生する.....33
間違った言語を選択してしまった場合.....13	再生スピードを変える (VSA機能).....34
日時を設定する.....14	キーを変える.....34
microSDカードを挿入する / 取り出す.....14	再生中に手でマークを付ける.....34
挿入する.....14	指定したマークを消去する.....34
取り出す.....14	第7章 便利な機能35
microSDカードを使えるようにする.....15	選択ファイルを分割する.....35
内蔵スピーカーの出力をオン / オフするには.....15	選択ファイルを手で分割する (ファイル分割).....35
モニター用機器を接続する.....15	選択ファイルを自動で分割する (マーク分割).....35
再生の音量を調節する.....16	リバース機能.....36
入力の設定をする.....16	リバースを設定する.....36
内蔵ステレオマイクで録音する.....16	リバースのプリセット一覧.....36
外部マイクで録音する (MIC IN).....16	XRI 情報記録機能を設定する.....37
外部機器から録音する (LINE IN).....17	XRI 情報を見る.....37
第4章 録音18	XRI 情報を削除する.....38
録音モードを選択する.....18	メトロノーム機能.....38
録音する.....18	第8章 パソコンと接続する39
シーンに合わせて録音する.....18	パソコンへファイルを取り出す.....39
ファイルを保存するフォルダーを選ぶ.....19	パソコンからファイルを取り込む.....39
録音フォーマットを設定する (録音形式 / サンプル / チャンネル).....19	パソコンとの接続を解除する.....39
入力レベルを調節する.....20	第9章 Wi-Fiを使う40
ピーク保持機能を設定する.....20	本機とスマートフォンをWi-Fiで接続する.....40
ローカットフィルターを設定する.....21	専用アプリケーション (DR CONTROL) の 入手・インストール方法.....40
レベルコントロール機能を使う.....21	Wi-Fiモードの選択.....40
録音中にファイルを切り換えて録音を続ける (トラックインク リメント).....22	本機と外部機器 (スマートフォン / タブレット / パソコン) を直接Wi-Fi接続する (直接接続モード).....40
録音中に手でトラックインクリメントする.....22	
指定した時間で自動的にトラックインクリメントする.....22	
録音を自動で開始する (オートレック).....22	
録音開始の少し前から録音する (プリレック).....23	

本機とスマートフォンをはじめてWi-Fi接続する.....	41
本機とスマートフォンをWi-Fi接続する場合 (2回目以降)	41
接続情報を確認する.....	42
本機と外部機器 (スマートフォン/タブレット/パソコン) をルーターを経由してWi-Fi接続する (ルーター経由モード)	42
DR CONTROLを起動する.....	44
本機とパソコンをWi-Fiで接続する	44
専用ソフトウェア (TASCAM DR FILE TRANSFER) の入 手・インストール方法.....	44
DR-22WLとパソコンを直接Wi-Fi接続する (直接接続モード).....	44
本機とパソコンをWi-Fi接続する場合 (2回目以降).....	45
第10章 各種設定および情報表示.....	46
情報を見る (インフォメーション)	46
ファイル情報画面 (ファイル情報).....	46
カード情報画面 (カード情報)	46
システム情報画面 (バージョン).....	46
環境設定 (システム設定).....	47
電源のオートパワーセーブ機能の設定.....	47
バックライトの設定.....	47
ディスプレイのコントラスト調節.....	47
電池の種類の設定.....	47
初期設定に戻す.....	47
microSDカードをフォーマットする	47
ファイル名の形式を設定する	48
言語を選択する.....	48
第11章 メッセージ.....	49
第12章 トラブルシューティング.....	50
第13章 仕様.....	51
定格.....	51
入出力定格.....	51
アナログオーディオ入出力定格.....	51
コントロール入出力定格.....	51
オーディオ性能.....	51
Wi-Fi.....	51
一般.....	52
寸法図.....	52

第1章 はじめに

本機の概要

- 記録メディアにmicroSD / microSDHC / microSDXCカードを採用したコンパクトサイズのオーディオレコーダー
- X-Yポジションに配置された高性能な指向性ステレオマイクを搭載
- スマートフォンなどからのリモートコントロールや本体のファイルの転送、オーディオ再生を可能にするWi-Fi機能を搭載
- シーンダイヤルを使った簡単録音
- 音を重ねる2種類のオーバーダビングモード
- 繰り返し再生するI/Oループ機能、音程を変えずに再生速度を変えるVSA機能、音程を変えるキーチェンジ、ファインチューン機能など、楽器練習などに便利はプラクティスモード
- 44.1k/48k/96kHz、16/24ビットのリニアPCM (WAV / BWF形式) 録音が可能
- 32k ~ 320kbpsのMP3形式での録音が可能 (ID3 tag v2.4 対応)
- 再生音に入力信号をミックスして別ファイルとして録音することが可能なオーバーダビング機能
- 0.3Wモノラル出力のスピーカー内蔵
- 録音時または再生時に使用可能な内蔵リバーブ搭載
- 音声の入力レベルを感知して、自動で録音を開始するオートレック機能
- 録音を継続したまま、任意の位置でファイルを更新できるトラックインクリメント機能
- 録音開始2秒前からの音を録音できるプリレック機能
- 入力レベルが大きすぎる場合に、適度なレベルに自動的に入力レベル設定を下げるピークリダクション機能
- 入力レベルが大きすぎる場合に、その部分だけ適度なレベルに自動的に調節するリミッター機能
- 低域ノイズを抑えるローカットフィルター
- 指定時間後に録音を開始するセルフタイマー機能
- 任意の位置でファイルを分割するディバイド機能 (WAVファイルのみ)
- 特定の位置への移動に役立つマーク機能
- ファイル名の形式をユーザーワードまたは日付のどちらかに設定可能
- 電源をオフにする前の再生位置を記憶しておくレジューム機能
- 外部ステレオマイク入力 (プラグインパワー対応) またはステレオ外部入力用の3.5mm (1/8") 端子
- 3.5mm (1/8") ライン出力/ヘッドホン出力端子
- 128 x 128 のバックライト付きドットマトリックスタイプLCD
- Micro-B タイプUSB 2.0端子
- 単3形電池2本、ACアダプター (別売: TASCAM PS-P515U) またはUSBバスパワー駆動
- 本体に三脚取り付け用穴を装備
- USBケーブル付属

本製品はアナログ・デバイス社製16/32ビット Blackfin®組み込みプロセッサを搭載し製品のデジタル信号処理と制御を行っています。

このBlackfin®プロセッサを搭載することにより製品の高性能化・省電力化を実現しています。

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機のボタン/端子などを「**▲/MENU/■**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **日時設定** のように表記します。
- ディスプレーに表示される反転表示部のことを「カーソル」と表記します。
- 「microSD/microSDHC/microSDXCメモリーカード」のことを「microSDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレイ上に表示される文字を **《OK》** のように **《 》** で括って表記します。
- 現在選択中のフォルダーのことを「カレントフォルダー」と表記します。
- 本機とWi-Fiで接続するパソコンやポータブルオーディオ機器などを「Wi-Fi機器」と表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- microSDXCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。



- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An independent license for such use is required. For details, please visit <http://mp3licensing.com>.
- Wi-Fiは、Wi-Fi Allianceの商標です。
- Wi-Fi CERTIFIED ロゴはWi-Fi Allianceの認定マークです。
- Windows は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Mac は、米国および他の国々で登録されたApple Inc. の商標です。
- IOSは、米国およびその他の国におけるCisco社の商標または登録商標であり、ライセンスに基づき使用されています。
- App Store は Apple Inc. のサービスマークです。
- AndroidおよびGoogle Playは、Google Inc.の商標または登録商標です。
- Blackfin® and the Blackfin logo are registered trademarks of Analog Devices, Inc.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

microSDカードについて

本機では、microSDカードを使って録音や再生を行います。使用できるカードは、64MB～2GBのmicroSDカードと4GB～32GBのmicroSDHCカード、および48GB～128GBのmicroSDXCカードです。

TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポート (巻末に記載) までお問い合わせください。

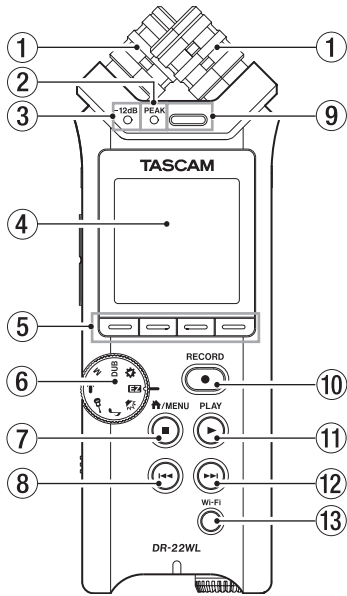
取り扱い上の注意

microSDカードは、精密にできています。microSDカードの破損を防ぐため、取り扱いに当たって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高いあるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を載せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。
- 録音、再生状態やデータ転送などアクセス中に、抜き差しを行わないこと。
- 持ち運ぶ際、メモリーカードケースなどに入れて運ぶこと。

第2章 各部の名称と働き


トップパネル





- ① **内蔵ステレオマイク**
エレクトレットコンデンサタイプのX-Y方式の単一指向性ステレオマイクです。
右サイドパネルのMIC/EXT IN端子に外部マイクや外部入力を接続すると、接続した外部マイク/外部入力が優先になり、内蔵ステレオマイクが無効になります。
- ② **PEAKインジケータ**
入力音が大きくなって歪む直前(-2dB)に点灯(赤)します。
- ③ **-12dBインジケータ**
入力音が-12dBを超えると点灯(緑)します。
- ④ **ディスプレイ**
各種情報を表示します。
- ⑤ **ファンクションボタン**
ディスプレイに表示している画面によって、それぞれのボタンに割り当てられる機能が変わります。
ディスプレイの画面下部に現在割り当てられている機能のアイコンが表示されます。

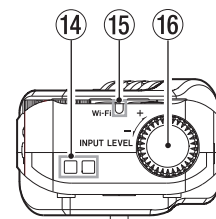
メモ

- 本リファレンスマニュアルでは、便宜上4つのファンクションボタンを左から順にF1、F2、F3、F4ボタンという名前で表記します。
- ⑥ **シーンダイヤル**
用途に合わせて簡単に本機の設定を変更することができます。(→ 18ページ「シーンに合わせて録音する」)
 - ⑦ **🏠/MENU/■ボタン**
ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。
各種設定画面を表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。
録音中にこのボタンを押すと停止状態になります。また、再生中または録音待機状態にこのボタンを押すと、一時停止または停止状態になります(ファイルの停止位置により変わります)。
 - ⑧ **◀◀ボタン**
再生中、またはファイルの途中で停止しているときにこのボタンを押すと、曲の先頭に戻ります。
このボタンを押し続けると、早戻しサーチを行います。

メニュー画面 ツール ページの マークスキップモード 項目が「切」以外のとき、F2  ボタンを押しながらこのボタンを押すと前のマークに移動します。(→ 27ページ「マークの位置への移動」)

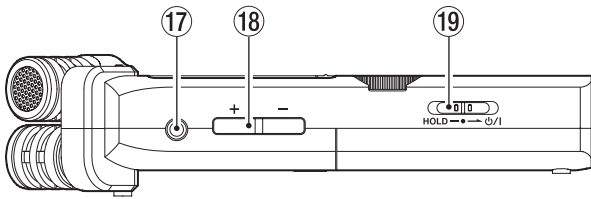
- ⑨ **内蔵モノラルスピーカー**
モニター用の内蔵スピーカーです。
以下の状態では、スピーカーから音は出力されません。
 - 録音待機中
 - ヘッドホン接続時
 - 録音中
 - スピーカー出力設定オフ時
- ⑩ **RECORDボタン / RECORDインジケータ**
停止中に押すと録音待機状態になり、RECORDインジケータ(RECORDボタンの周囲)が点滅します。
録音待機中に押すと録音が始まり、RECORDインジケータが点滅します。
録音中に押すと録音一時停止になり、RECORDインジケータが点滅します。
シーンダイヤルが「」のときは、停止中に押すと録音が始まります。
- ⑪ **PLAYボタン**
ホーム画面で停止中に押すと、再生を始めます。
ブラウズ画面で、ファイルまたはフォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのファイルまたはフォルダーの最初から再生します。
- ⑫ **▶▶ボタン**
停止中または再生中にこのボタンを押すと、次のファイルにスキップします。
このボタンを押し続けると、早送りサーチを行います。
メニュー画面 ツール ページの マークスキップモード 項目が「切」以外のとき、F2  ボタンを押しながらこのボタンを押すと、次のマークに移動します。(→ 27ページ「マークの位置への移動」)
- ⑬ **Wi-Fiボタン**
無線LAN機能のオン/オフを行います。

フロントパネル



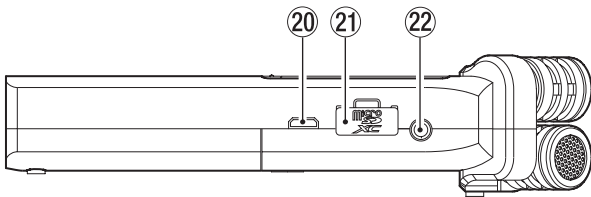
- ⑭ **ストラップホルダー**
ストラップを取り付けます。
- ⑮ **Wi-Fiインジケータ**
無線LANのモジュールが動作中、インジケータが点灯します。
- ⑯ **INPUT LEVELボリューム**
入力レベルを調節します。
調節中は、入力レベル設定状態をディスプレイにポップアップ表示します。

左サイドパネル



- ①⑦ Ω /LINE OUT端子
ヘッドホンまたはステレオミニジャックケーブルを使用して、外部機器のライン入力端子と接続します。
- ①⑧ OUTPUT LEVEL (+ / -) ボタン
内蔵スピーカーまたは Ω /LINE OUT端子から出力される音量を大きくします。
調節中は、ボリューム位置がディスプレイの下部にポップアップ表示されます。
- ①⑨ HOLD / ON/OFFスイッチ
「ON/OFF」方向にスライドし続けることで、電源のオン/オフの切り換えを行います。
「HOLD」方向にセットすると、ホールド機能が働きます。ホールド中は、全てのボタン操作を受け付けません。

右サイドパネル



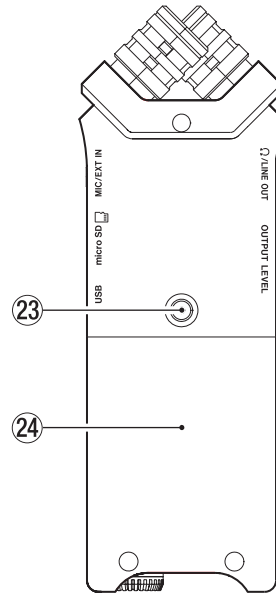
- ②⑩ USB端子
付属のUSBケーブルを使って、パソコンと接続するためのUSBポートです。(→ 39ページ「第8章 パソコンと接続する」)
付属のUSBケーブルまたは別売の専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) で電源を供給することができます。

注意

パソコンとの接続は、USBハブを経由せずに直接接続してください。

- ②⑪ microSDカードスロット
microSDカードの挿入/取り出しをします。
- ②⑫ MIC/EXT IN端子
ステレオミニジャックの外部マイク入力または外部入力端子です。プラグインパワーに対応しています。
MIC/EXT IN端子に接続された外部マイクが内蔵ステレオマイクよりも優先されます。

ボトムパネル

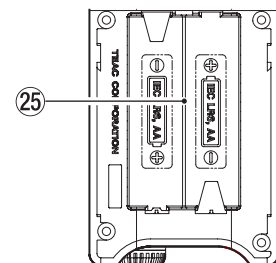


- ②③ 三脚取り付け用穴 (1 / 4インチ)
本体に三脚を取り付けることができます。

注意

- 本体の落下を防ぐため、三脚またはマイクスタンド各部のネジを確実に締めてください。
- 三脚またはマイクスタンドに本体を取り付けて使用する場合は、三脚またはマイクスタンドを水平な場所に置いてください。

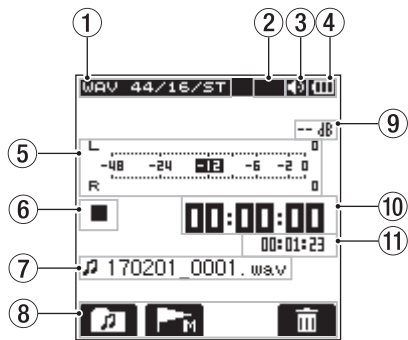
- ②④ 電池ケース蓋



- ②⑤ 電池ケース
本機の電源になる電池 (単3形電池、2本) を収納するケースです。(→ 12ページ「単3形電池で使用する」)

第2章 各部の名称と働き

ホーム画面



① 再生ファイル形式表示

再生するファイルフォーマット、サンプリング周波数、ビットレート、ステレオ/モノラルの設定状態を表示します。

② プラグインパワーのオン/オフ状況表示

プラグインパワー機能のオン/オフ状態をアイコン表示します。
(→ 16ページ「外部マイクで録音する (MIC IN)」)

アイコン	オン/オフ状態
	プラグインパワー機能オフ
	プラグインパワー機能オン

③ モニター出力表示

：内蔵スピーカーから出力します
：ヘッドホンから出力します

④ 電源供給の状態表示

電池供給時は、電池残量に応じて目盛りが表示されます (、、)。
目盛り表示がなくなると が点滅し、電池切れのためにまもなく電源がオフ (スタンバイ状態) になります。
別売の専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) 使用時およびUSBバスパワー供給時は、 を表示します。

メモ

残量がなくなる前でも録音など消費電力の大きい動作を行おうとすると、「電池残量が少ないです」の警告のポップアップメッセージが出る場合があります。

⑤ レベルメーター

再生音のレベルを表示します。

⑥ レコーダーの状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
	停止中
	一時停止中
	再生中
	早送り中
	早戻し中
	次のファイルの先頭にスキップ
	現在または手前のファイルの先頭にスキップ

⑦ ファイル名表示

再生中のファイルのファイル名、またはタグ情報を表示します。
ID3タグ情報を持つMP3ファイルの場合は、ID3タグ情報が優先して表示されます。

メモ

ID3タグ情報とは、MP3ファイルに保存可能なタイトルやアーティスト名の情報です。

⑧ ファンクションボタン状態表示

停止中および再生中に以下のアイコンを表示します。

アイコン表示	機能	参照ページ
	ブラウズ画面を表示	→ 30ページ
	マーク機能 (セット/クリア)	→ 26ページ
	ファイルの削除	→ 29ページ

⑨ ピーク値のデシベル (dB) 表示

一定時間ごとに、その期間の再生レベルの最大値を、デシベル表示します。

⑩ 経過時間表示

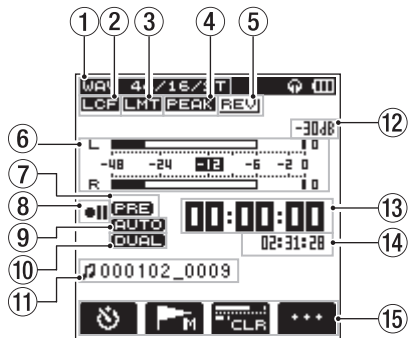
現在のファイルの経過時間 (時:分:秒) を表示します。

⑪ 残量時間表示

現在のファイルの残量時間 (時:分:秒) を表示します。

録音画面

録音待機中または録音中は、以下の録音画面を表示します。



① 録音モード表示

録音ファイルの形式、サンプリング周波数、ステレオ/モノラルを表示します。(→ 19ページ「録音フォーマットを設定する(録音形式/サンプル/チャンネル)」)

② ローカットフィルターのオン/オフ状態表示

ローカットフィルターのオン/オフ状態を表示します。(→ 21ページ「ローカットフィルターを設定する」)
選択肢を 40Hz / 80Hz / 120Hz / 220Hz に設定時に、反転表示します。

表示なし : ローカットフィルターオフ
LCF : ローカットフィルターオン

③ リミッター機能のオン/オフ状態表示

リミッター機能のオン/オフ状態を表示します。(→ 21ページ「レベルコントロール機能を使う」)

表示なし : リミッター機能オフ
LMT : リミッター機能オン

④ ピークリダクション機能のオン/オフ状態表示

ピークリダクション機能のオン/オフ状態を表示します。(→ 21ページ「レベルコントロール機能を使う」)

表示なし : ピークリダクション機能オフ
PEAK : ピークリダクション機能オン

⑤ リバーブのオン/オフ状態表示

リバーブのオン/オフ状態を表示します。

アイコン	オン/オフ状態
表示なし	リバーブオフ
REV	リバーブオン (出力音に残響音を加える状態)
REV	リバーブオン (入力音に残響音を加える状態)

⑥ レベルメーター

入力音のレベルを表示します。
オートレック機能がオンのとき、オートレック機能が働くスタートレベル値を枠として表示します。

⑦ プリレック機能のオン/オフ状態表示

プリレック機能のオン/オフ状態を表示します。(→ 23ページ「録音開始の少し前から録音する(プリレック)」)

表示なし : プリレック機能オフ
PRE : プリレック機能オン

⑧ レコーダー動作状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
●	録音待機中または録音一時停止中
●	録音中
5S	5秒後に録音を開始
10S	10秒後に録音を開始

⑨ オートレック機能のオン/オフ状態表示

オートレック機能のオン/オフ状態を表示します。(→ 22ページ「録音を自動で開始する(オートレック)」)

表示なし : オートレック機能オフ
AUTO : オートレック機能オン

メモ

シーンモードが「EZ」および「0」のときは、**AUTO** 表示になります。

このとき、レベルコントロールは自動となります。

⑩ デュアルフォーマット録音機能のオン/オフ状態表示

デュアルフォーマット録音機能のオン/オフ状況表示を表示します。(→ 24ページ「2種類のフォーマットで録音する(デュアルフォーマット録音)」)

表示なし : デュアルフォーマット録音機能オフ
DUAL : デュアルフォーマット録音機能オン

⑪ ファイル名表示

録音するファイルに自動的に付けられるファイル名を表示します。

⑫ ピーク値のデシベル (dB) 表示

入力レベルのピーク値をデシベル表示します。

録音レベルがオーバーレベル (-2dB以上) のとき **OVER** を表示します。

⑬ 録音経過時間

録音ファイルの経過時間 (時:分:秒) を表示します。

⑭ 録音残時間

microSDカードに録音可能な残時間 (時:分:秒) を表示します。

⑮ ファンクションボタン表示

録音待機時、録音中および録音一時停止中に以下のアイコンを表示します。

アイコン表示	機能	参照ページ
	セルフタイマー機能	→ 24ページ
	マーク機能 (セット)	→ 26ページ
	ピーク保持のクリア	→ 20ページ
	入力設定画面を表示	→ 21ページ
	トラックインクリメント実行	→ 22ページ

第2章 各部の名称と働き

メニューの構成

HOME/MENU/ENTER ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。



メニュー画面は、メニュー項目の種類ごとに4つのページで構成されています。

- 録音設定 : 録音のための基本設定を行います。
- ツール : 再生ファイルに対する便利機能の設定を行います。
- システム設定 : 本機の環境設定などを行います。
- インフォメーション : ファイル情報やメディア情報などを表示します。

メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
録音設定	録音の設定を行います。	
	録音形式	→ 19ページ
	サンプル	
	チャンネル	
	プリレック	
	自動機能	→ 23ページ
		→ 22ページ
		→ 22ページ
		→ 26ページ
	デュアル	→ 24ページ
番号リセット	→ 48ページ	
ピーク保持	→ 20ページ	
ツール	各種機能の設定を行います。	
	マークスキップモード	→ 27ページ
	HRIモード	→ 37ページ
	ファイル分割	→ 35ページ
	マーク分割	→ 35ページ
	リバーブ	→ 36ページ
	スピーカー	→ 15ページ
	メトロノーム	→ 38ページ
システム設定	各種設定を行います。	
	カード初期化	→ 47ページ
	バックライト	→ 47ページ
	コントラスト	→ 47ページ
	Wi-Fi	→ 40ページ
		→ 42ページ
		→ 44ページ
	自動電源制御	→ 47ページ
	電池タイプ	→ 47ページ
	日時設定	→ 14ページ
	ファイル名設定	→ 48ページ
設定初期化	→ 47ページ	

メニュー項目	機能	参照ページ
インフォメーション	各種情報を表示します。	
	HRI	→ 37ページ
	ファイル情報	→ 46ページ
	カード情報	→ 46ページ
	バージョン	→ 46ページ

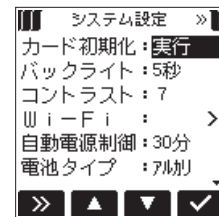
メニューを使う

ディスプレイのコントラストの設定を変更することを例に説明します。

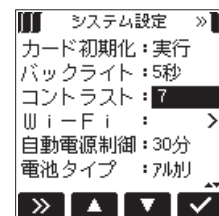
- HOME/MENU/ENTER ボタンを押して、メニュー画面を表示します。



- F1 (F1) ボタンを押して、各種メニューページを表示します。

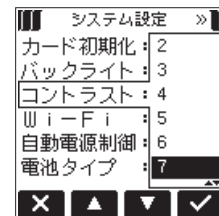


- F2 (F2) ボタンとF3 (F3) ボタンを使って、設定する項目のパラメーターを選択 (反転表示) します。



[コントラスト 項目選択時]

- F4 (F4) ボタンを押して、パラメーター表示が開きます。



- F2 (F2) ボタンとF3 (F3) ボタンを使って設定を変更し、F4 (F4) (F4) ボタンを押して設定を決定します。
F1 (F1) ボタンを押すと、変更を破棄します。
- 必要に応じて手順2. ~ 5.を繰り返し、各項目を設定します。
- 設定が終了したら、HOME/MENU/ENTER ボタンを押してホーム画面に戻ります。

操作の基本

各種設定画面の操作には、次の操作子を使用します。

▲/MENU/■ボタン

停止中または一時停止中に押すと、メニュー画面を呼び出します。

各設定画面を表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

第3章 準備

電源の準備

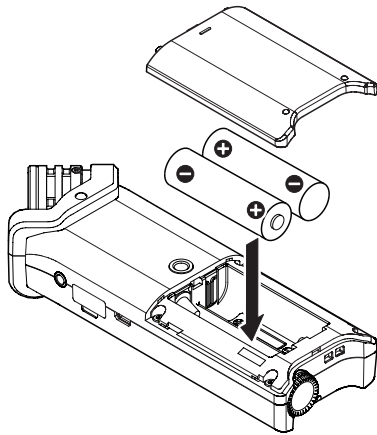
電源について

本機は、単3形電池2本、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）または付属のUSBケーブルを使って（USBバスパワー供給）、本機に電源を供給します。

電池は、単3形アルカリ乾電池または単3形ニッケル水素電池を使用することができます。

単3形電池で使用する

本機のボトムパネルにある電池ケース蓋を取り外し、電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて、単3形電池を2本セットして、電池ケース蓋を取り付けます。



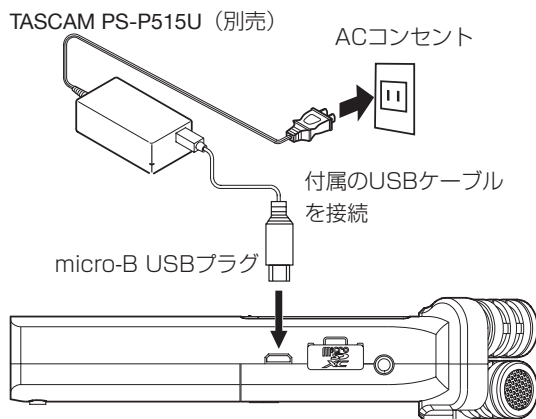
単3形電池で使用する時、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定してください。（→47ページ「電池の種類の設定」）

注意

- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。
- 付属のアルカリ乾電池は、動作確認用です。そのため寿命が短い場合があります。

ACアダプターで使用する（別売）

図のように、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。



メモ

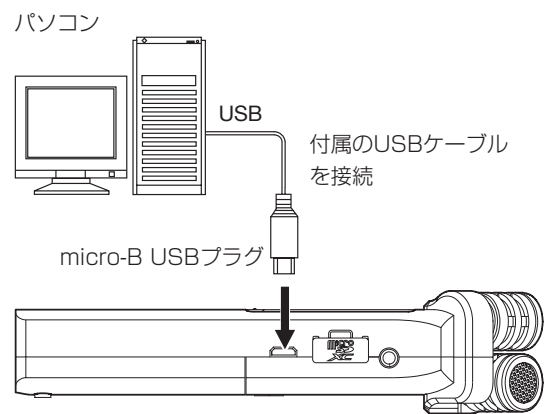
電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。

注意

- 必ず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

USBバスパワーで使用する

図のように、パソコンと本機を付属のUSBケーブルを使って接続します。



電源がオンのときにUSB接続する、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで本機を動作させるか、またはパソコンとUSB接続するかを選択する **USBモード** 画面が表示されます。



F2 ▲ ボタンと**F3** ▼ ボタンを使って「電源供給」を選択（反転表示）し、**F4** ✓ ボタンを押すと電源がUSB端子から供給され、ホーム画面が表示されます。

メモ

電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます（USBバスパワー優先）。

注意





- パソコンのUSBバスパワーの仕様によっては、USBケーブルで接続しても本機が動作しないことがあります。その場合は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。
- 本機は、パソコン本体の省電力機能、スリープ機能などには対応していません。パソコンからのUSBバスパワーで本機を使用する場合は、必ずそれらの機能をオフにしてください。

電源をオンにする／オフ（スタンバイ状態）にする

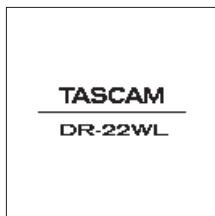
注意

- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）使用時、およびパソコンとのUSBバスパワー接続で供給しているときは、電源をオフにするとスタンバイ状態になります。
- 本機の電源のオン／オフは、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源のオン／オフ（スタンバイ状態）時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、スピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

電源をオンにする

電源がオフ時に、左サイドパネルのHOLD/  /  スイッチを「 / 」方向にスライドし、TASCAM DR-22WL（起動画面）が表示されたら離します。

本機が起動してホーム画面が表示されます。



[起動画面]







[ホーム画面]

注意

初回電源投入時（および電池がない状態でしばらく置いて内蔵時計がリセットされたとき）には、起動画面が表示される前に、日時を設定する **日時設定** 画面が表示されます。（→ 14ページ「日時を設定する」）

電源をオフ（スタンバイ状態）にする

電源オン時に、左サイドパネルのHOLD/  /  スイッチを「 / 」方向にスライドし、「TASCAM DR-22WL 電源をオフにしています」と表示されたら離します。

シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフになります。



注意

電源をオフにするときは、必ずHOLD/  /  スイッチで行ってください。

電源がオンのときに電池を外したり、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）で使用しているときに電源コードを抜いたり、USBバスパワーで使用している時にUSBケーブルを抜くと録音データや設定などが全て失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

レジューム機能

本機は、レジューム機能を搭載しており、電源をオンにしたときに、前回電源をオフにしたときの位置（時間）にロケートされます。電源投入後、PLAYボタンを押すと、電源をオフにした時点のファイルの再生位置（時間）から再生することが可能です。

メモ

この内容は、microSDカードに記録されているため、microSDカードを入れ換える、またはフォーマットした場合にはレジュームできません。

言語を選択する

本機は、ディスプレイに表示される言語を切り換えることができます。お買い上げ後にはじめて電源をオンにしたとき、メニューやメッセージに使用する言語を設定する **言語** 画面が表示されます。また、**システム設定** 画面の **言語** 項目で再設定することができます。









1. F2  ボタンとF3  ボタンを使ってカーソルを移動し、言語を選択します。

選択肢

English	: 英語で表示
日本語	: 日本語で表示
Français	: フランス語で表示
Español	: スペイン語語で表示
Deutsch	: ドイツ語で表示
Italiano	: イタリア語で表示
Русский	: ロシア語で表示

2. 選択が完了したら、F4  ボタンを押して確定します。

間違った言語を選択してしまった場合

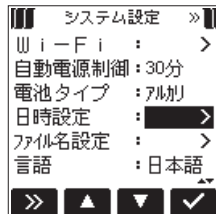
HOLD/  /  スイッチで電源をオフにしたあと、 / MENU /  ボタンを押しながらHOLD/  /  スイッチで電源をオンにしてください。

言語選択メニューが表示され、言語の選択が可能となります。

日時を設定する

本機は、本体内の時計を基に、録音したファイルに日時を記録します。

1. **HOME/MENU/■** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1 >>** ボタンを押して、**システム設定** ページを表示します。
3. **F2 ▲** ボタンと**F3 ▼** ボタンを使って、**日時設定** 項目のパラメーターを選択（反転表示）します。



4. **F4 ✓** ボタンを押して、**日時設定** 画面を表示します。



5. **F4 →** ボタンを押してカーソル（反転表示部）を移動し、**F2 ▲** ボタンと**F3 ▼** ボタンを使って値を変更します。
6. **F1 <** ボタンを押すと確定し、**システム設定** ページに戻ります。

メモ

ここで設定した日付がファイル名に使用されます。（→ 48 ページ「ファイル名の形式を設定する」）

注意

日時の設定は、電池のない状態または別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）の接続がない状態、USBバスパワーで動作していない状態では、数分しか保持しません。電池でお使いの場合は、完全に電池がなくなる前に電池交換することをお勧めします。

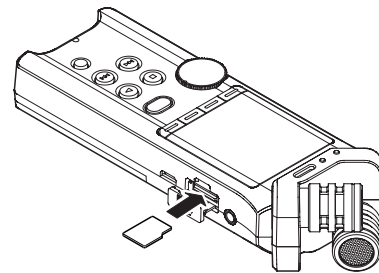
microSDカードを挿入する／取り出す

挿入する

メモ

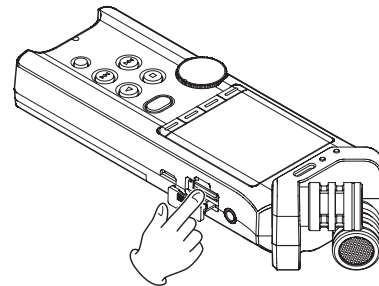
本機をお買い上げ時、microSDカードスロットにmicroSDカードが挿入されています。このmicroSDカードをそのまま使って録音／再生を行う場合は、改めて挿入し直す必要はありません。

1. 右サイドパネルのmicroSDカードスロットのカバーを開きます。
2. microSDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



取り出す

1. microSDカードスロットのカバーを開きます。
2. microSDカードを軽く押し込んでから放すと手前に出てきます。



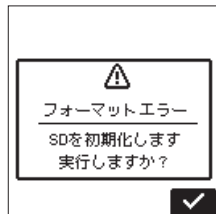
注意

- 録音、再生などカードアクセス中に、本機からmicroSDカードを取り出さないでください。
- パソコンとUSB接続中に、本機からmicroSDカードを取り外さないでください。
- 使用できるmicroSDカードは、microSD/microSDHC/microSDXC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) には、当社で動作確認済みのmicroSDカードのリストが掲載されています。

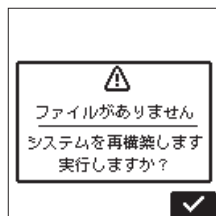
microSDカードを使えるようにする

本機でmicroSDカードを使えるようにするために、本機で初期化する必要があります。

1. microSDカードが挿入されていることを確認し、電源をオンにします。
2. 新しいカード、または本機以外でフォーマットされたカードを挿入したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



[microSD / microSDHCカードの場合]



[microSDXCカードの場合]

3. **F4** ボタンを押すと、初期化を開始します。

注意

フォーマットを行うと、カード上のデータは全て消去されます。

4. 初期化が終了するとホーム画面に戻ります。また、本機ではいつでもフォーマットを行うことができます。

注意

フォーマットは、別売の専用ACアダプター (TASCAM PS-P515U) を使用するか、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で供給しているときに行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。

内蔵スピーカーの出力をオン／オフするには

工場出荷時、本機の内蔵スピーカーの出力設定はオンに設定されています。内蔵スピーカーの出力をオフにするには、メニュー画面のツール ページ内の **スピーカー** 項目をオフにしてください。

1. **HOME/MENU** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1** ボタンを使って、ツール ページを表示します。
3. **F2** ボタンと **F3** ボタンを使って **スピーカー** 項目を選択 (反転表示) を選択し、**F4** ボタンを押します。**スピーカー** 項目のパラメーター表示を開きます。



4. **F2** ボタンと **F3** ボタンを使って設定し、**F4** ボタンを押します。
選択肢: 切、入 (初期値)
5. 設定が終了したら、**HOME/MENU** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

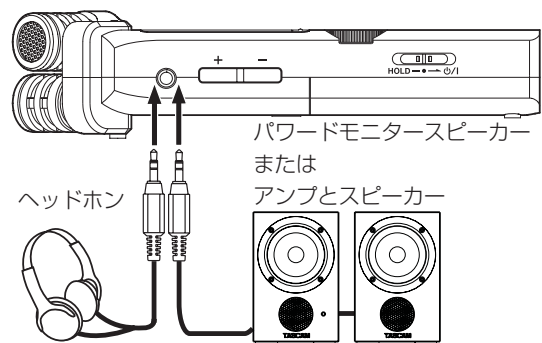
メモ

録音待機中または録音中のとき、またはヘッドホン/モニターシステムを接続すると、**スピーカー** 項目が「入」に設定されていても、内蔵スピーカーから音は出力されません。

モニター用機器を接続する

ヘッドホンで聴く場合は、左サイドパネルの **Ω /LINE OUT** 端子にヘッドホンを接続してください。

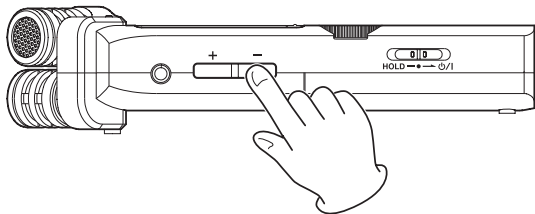
外部モニターシステム (パワーモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー) で聴く場合は、**Ω /LINE OUT** 端子に外部モニターシステムを接続してください。



再生の音量を調節する

内蔵スピーカーまたは Ω /LINE OUT端子から出力される音量を、左サイドパネルのOUTPUT LEVEL (+/-) ボタンを使って調節します。

このとき、ボリューム位置がディスプレイの下部にポップアップ表示されます。



また、音量を上げていくとポップアップメッセージ「大音量による聴覚障害のリスクが増大します」を表示することがあります。



これは、聴覚障害を防止するためにEU（欧州連合）が推奨するレベルを超える音量に設定しているときに、警告を表示するものです（EU（欧州連合）の音圧規制）。

ヘッドホンを接続し直すと、音量が初期設定にリセットされます。

メモ

ポップアップメッセージが出ても、引き続き音量の調整はできます。

音量を上げるか、下げるとポップアップメッセージが消え、同時に音量調節もできます。

注意

大音量で音を聴いていると聴覚を損なう恐れがあります。また、周囲の騒音によっても、再生音が実際の音量よりも小さく感じられる場合があります。

ヘッドホンなどを耳に装着する際には、先にオーディオを再生して音量を確認するようにしてください。

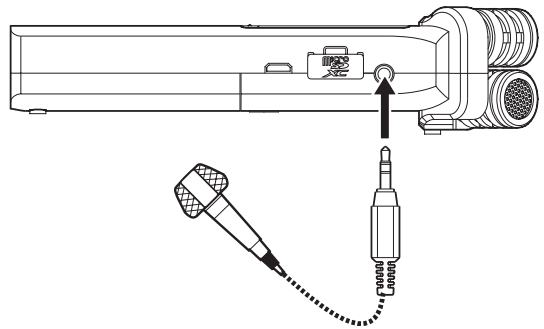
入力の設定をする

内蔵ステレオマイクで録音する

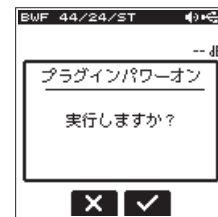
内蔵ステレオマイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

外部マイクで録音する（MIC IN）

外部マイクを右サイドパネルのMIC/EXT IN端子に接続します。



MIC/EXT IN端子に接続したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



プラグインパワー方式* 対応マイクの場合は**F3** ボタンを選択、それ以外の場合は**F2** ボタンを選択します。

※「プラグインパワー方式」とは、録音機からマイクへ電源を供給する方式のことです。

メモ

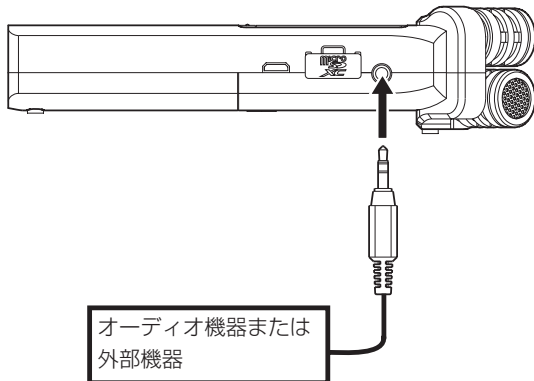
外部マイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

注意

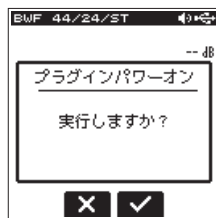
- プラグインパワーを必要とするマイクを接続するとき以外は、**F3** ボタンを選択（オン）しないでください。接続した機器の故障の原因になる恐れがあります。詳細については、マイクの取扱説明書をご参照ください。
- ダイナミックマイクや電池内蔵の外部マイクを接続するときは、**F3** ボタンを選択（オン）しないでください。プラグインパワーをオンにすると接続したマイクの故障の原因になる恐れがあります。

外部機器から録音する (LINE IN)

ステレオミニプラグケーブルを使用して、外部オーディオ機器 (ポータブルCDプレーヤーのヘッドホン端子など) の出力と接続します。



MIC/EXT IN端子に接続したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



外部機器の場合は、F2 **X** ボタン (プラグインパワーオフ) を選択します。

注意

本機の入力レベルを調節しても、入力された音が歪んでいる場合は、外部機器の再生音量を小さくしてください。

第4章 録音

本機は、内蔵ステレオマイクを使った録音の他に、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）からの信号を録音することができます。

録音オーディオファイル形式は、MP3（32k～320kbps、44.1k/48kHz）、WAV / BWF（44.1k/48k/96kHz、16/24ビット）から設定可能です。

BWF（Broadcast Wave Format）に対応したWAVファイルは、録音中に付けたマークをBWF対応のソフトなどで使用することができます。

また本機では、オーディオファイルを再生しながら入力信号をミックスして別ファイルとして録音することができます（オーバーダビング機能）。

録音モードを選択する

EZ（EASY、簡単録音モード）

シーンダイヤルを「EZ」に合わせます。

RECORDボタンを1回押すだけですぐに録音を開始し、自動で録音レベルが調節される簡単録音モードです。はじめてお使いになる方や簡単に録音したい方にお勧めです。

M（MANUAL、マニュアルモード）

シーンダイヤルを「M」に合わせます。

録音レベルを手動で調節できるため、より良い音で録音できるモードです。より良い音で録音するため、きめ細かく録音レベルを調節したい方にお勧めです。

録音する

1. RECORDボタンを押し、録音待機状態にします。
RECORDインジケーター（RECORDボタンの周囲）が点滅し、録音画面が表示されます。

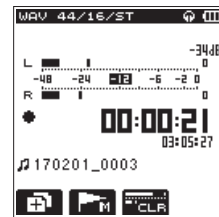


録音画面の下側には、録音ファイル名とともに録音オーディオファイル形式およびサンプリング周波数が表示されますので、録音を開始する前に確認することができます。

メモ

シーンダイヤルで「EZ」が選ばれているときは、RECORDボタンを一度押すと録音を開始します。

2. 再度RECORDボタンを押すと、録音が始まります。



録音が始まるとRECORDインジケーターが点灯し、ディスプレイには録音経過時間および録音残時間が表示されます。

録音中にRECORDボタンを押すと一時停止します。

もう一度RECORDボタンを押すと録音を再開します。

一時停止後に↑/MENU/■ボタンを押すと、一時停止までの録音したオーディオファイルが作成されます。

3. 録音を終えるときは、↑/MENU/■ボタンを押します。
録音を終了し、ファイルの先頭に戻って停止します。

メモ

- 録音待機中はスピーカーから音は出ません。入力音を聴きながらレベル調節などを行う場合ヘッドホンをご使用ください。録音中にOUTPUT LEVEL（+/-）ボタンで出力の音量を変えても録音レベルには影響ありません。
- 本機は、RECORDボタンの操作音が録音されるのを避けるため、録音開始時にRECORDボタンが押されてから約0.3秒後（時間固定）に録音が始まります（レックディレイ機能）。

注意

本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

シーンに合わせて録音する

シーンによって適した音質に補正して録音するプリセットが用意されています。次のシーンモードは、シーンダイヤルを回して設定します。

LOUD

バンド演奏の録音など、音量が大きい音を録音するときに適しています。

MUSIC

コンサートや合唱など、音声を録音するときに適しています。

INSTRUMENT

アコースティックギターや管楽器など、楽器に近づけて録音するときに適しています。

INTERVIEW

インタビューや会議のメモ録音などをするときに適しています。

メモ

シーン設定後も録音レベル、ローカットフィルター、レベルコントロールなどを変更することができます。ただし、「EZ」または「LOUD」を選択したときはレベルコントロールの変更はできません。なお、設定した内容は記憶されないため、シーンを変更するとその変更は破棄されます。

ファイルを保存するフォルダーを選ぶ

録音したファイルは、カレントフォルダーへ保存されます。特に指定しない場合は、《MUSIC》フォルダーの下に保存されます。好きなフォルダーへ変更したい場合は、30ページ「第5章 ファイルやフォルダーの操作（ブラウズ画面）」でフォルダーを指定してください。

SDカードを初期化すると、《MUSIC》フォルダーに設定されます。

録音フォーマットを設定する (録音形式／サンプル／チャンネル)

録音を実行する前に、録音オーディオのファイル形式を設定します。

1. **HOME/MENU/** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1** **▶▶** ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。

〈録音形式設定〉

3. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って **録音形式** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** **✓** ボタンを押します。
録音形式 項目のパラメーター表示を開きます。



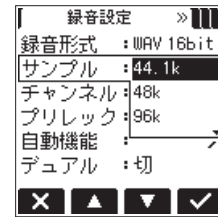
4. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って、ファイル形式を設定（反転表示）します。
選択肢：BWF 24bit、BWF 16bit、WAV 24bit、WAV 16bit（初期値）、MP3 320k、MP3 256k、MP3 192k、MP3 128k、MP3 96k、MP3 64k、MP3 32k

メモ

- BWFは放送局用のフォーマットで、音質はWAVと同等です。ファイルの拡張子は「.wav」で、WAVファイルの拡張子と同じです。本書では、BWFに対応したWAVファイルを「BWF」、BWFに対応していないWAVを「WAV」と表記します。
 - WAVの方がMP3よりも高音質で録音ができます。
 - MP3の方がWAVよりも長時間録音ができます。
 - MP3の場合は、値が大きいくほど高音質で録音ができます。
5. **F4** **✓** ボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。

〈サンプル設定〉

6. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って **サンプル** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** **✓** ボタンを押します。
サンプル 項目のパラメーター表示を開きます。



7. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って、サンプリング周波数を設定（反転表示）します。

選択肢：44.1k（初期値）、48k、96k

メモ

ファイル形式がMP3のときは、96kは選択できません。

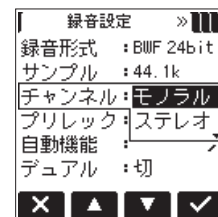
ヒント

WAV 16bit、44.1kHzを選ぶとCDと同等の音質で録音することができます。

8. **F4** **✓** ボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。

〈チャンネル設定〉

9. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って **チャンネル** 項目を選択（反転表示）し、**F4** **✓** ボタンを押します。
チャンネル 項目のパラメーター表示を開きます。



10. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って、ステレオファイルかモノラルファイルかを設定（反転表示）します。

選択肢：モノラル、ステレオ（初期値）

メモ

- **モノラル** を選択した場合、Lチャンネル + Rチャンネルの信号を録音します。
- WAV形式の **モノラル** を選択した場合は、**ステレオ** を選択した場合に対し録音時間が2倍となりますので、長時間録音が可能となります。

11. **F4** **✓** ボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。

12. 設定が終了したら、**HOME/MENU/** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

入力レベルを調節する

録音した曲が入力が大きすぎて歪む、または小さすぎてノイズに埋もれてしまったりするのを避けるために、録音する前に入力レベルを調節する必要があります。

手動で調節する機能の他にリミッター機能/ピークリダクション機能もありますので、お好みに応じてお使いください。

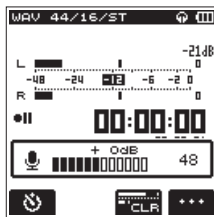
ヒント

入力レベルの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向きや音源との距離によって音質が変わります。

1. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
RECORDインジケータ（RECORDボタンの周囲）が点滅し、録音画面が表示されます。



2. INPUT LEVELボリュームを使って、入力レベルを調節します。
入力レベル設定状態を表すメーターがディスプレイの下部にポップアップ表示されます。



より良い音で録音するために、できるだけ大きな音で録音することをお勧めします。最適なレベルに設定するための目安として、-12dBインジケータ（緑）が点灯するように入力レベルを上げてください。また、入力レベルが大きすぎると音が歪む可能性があるため、PEAKインジケータ（赤）が点灯する場合は入力レベルを下げてください。

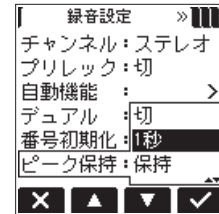
メモ

- 録音待機状態を解除するには、HOME/MENU/ENTERボタンを押します。
- 録音待機中や録音中は、メニュー画面の「スピーカー」項目の設定が「入」の場合でもスピーカーから音は出ません。モニター音を聴き取りながら入力レベル調節や録音を行う場合は、ヘッドホンの本機のLINE OUT端子に接続してください。モニター音は、ホーム画面表示中にOUTPUT LEVEL (+/-) ボタンで調節できます。モニター音量を変えても録音される音には、影響ありません。

ピーク保持機能を設定する

ピーク保持機能を使用すると、よりレベル監視がしやすくなります。

1. HOME/MENU/ENTERボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1 (右向き) ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。
3. F2 (上向き) ボタンとF3 (下向き) ボタンを使って、ピーク保持 項目のパラメータを選択（反転表示）し、F4 (チェック) ボタンを押します。
ピーク保持 項目のパラメータ表示を開きます。



4. F2 (上向き) ボタンとF3 (下向き) ボタンを使って、ピーク保持モードを設定（反転表示）します。

選択肢

- 切 : ピークレベルを保持しません
- 1秒 (初期値) : ピークレベルを1秒間保持します。
- 保持 : ピーククリアボタン (CLR ボタン) を押すまでピークレベルを保持します。






メモ

ピーク保持モードを「保持」に設定すると、録音待機状態にしたときF3 (CLR) ボタンが表示されます。





5. F4 (チェック) ボタンを押して設定を確認し、設定項目選択状態にします。
6. 設定が終了したら、HOME/MENU/ENTERボタンを押してホーム画面に戻ります。

ローカットフィルターを設定する

ローカットフィルターを使うと、空調機やプロジェクターなどによるノイズや耳障りな風切音などのノイズを低減することができます。

1. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
RECORDインジケーターが点滅し、録音画面が表示されます。
2. F4  ボタンを押して、入力設定画面を表示します。
3. F1  ボタンを押して、入力設定画面の 入力 ページを表示します。
4. F2  ボタンとF3  ボタンを使って ローカット 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、F4  ボタンを押します。
ローカット 項目のパラメーター表示を開きます。



5. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、ローカットフィルターのカットオフ周波数を選択（反転表示）します。
選択肢：切（初期値）、40Hz、80Hz、120Hz、220Hz
6. F4  ボタンを押して、選択したローカットフィルターのカットオフ周波数を確定します。
7. 設定が終了したら、 /MENU/8ボタンを押して録音画面に戻ります。

メモ






- ローカットフィルターがオンのとき、録音画面に **LCF** アイコンを表示します。
- ローカットフィルターの設定は、録音待機中に設定／変更することができます。

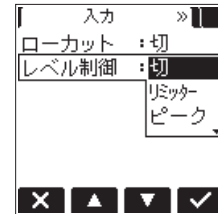
ヒント





- 数字が大きいくほど低域の雑音を減らすことができますが、音楽の場合はあまり大きくしないことをお勧めします。
- 本機には、リバーブが内蔵され、必要に応じて入力ソースにかけることができます。（→ 36ページ「リバーブ機能」）

レベルコントロール機能を使う

マイク入力時の録音レベルコントロール機能を設定します。

1. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
RECORDインジケーターが点滅し、録音画面が表示されます。
2. F4  ボタンを押して、入力設定画面を表示します。
3. F1  ボタンを押して、入力設定画面の 入力 ページを表示します。
4. F2  ボタンとF3  ボタンを使って レベル制御 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、F4  ボタンを押します。
レベル制御 項目のパラメーター表示を開きます。



5. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、機能を選択（反転表示）します。
選択肢：切（初期値）、リミッター、ピーク
6. F4  ボタンを押して、選択した機能を確定します。
7. 設定が終了したら、 /MENU/8ボタンを押して録音画面に戻ります。

メモ

選択されている機能は、録音画面にアイコンで表示されます。

- リミッター機能がオンのとき、録音画面に **LMT** アイコンを表示します。
- ピークリダクション機能がオンのとき、録音画面に **PEAK** アイコンを表示します。

リミッター

過大入力時のみ動作するリミッター機能です。楽器演奏や音楽の録音に適しています。

ピーク

過大入力時に録音レベルを適度なレベルまで自動的に下げる機能です。録音レベルをあらかじめ設定できないときや録音中に調節ができないときなどに便利です。

注意

入力音が大きすぎるとリミッター機能をオンにしても歪んでしまう場合があります。そのときは、手動で入力レベルを下げるか、音源からマイクを離してください。

メモ

レベルコントロール機能を有効にしたときでも、INPUT LEVELボリュームを使ってレベル調節は可能です。ただし、シーンダイヤルが「EZ」または「U」を選択中は使えません。

録音中にファイルを切り換えて録音を続ける (トラックインクリメント)

録音中に手動で、または設定した時間になったときに自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続することができます。(トラックインクリメント機能)

録音中に手動でトラックインクリメントする

録音中に、いつでも簡単に手動でファイルを更新し、録音を継続することができます。

1. 録音中に、F1  ボタンを押します。

メモ

新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。










注意

- フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成するファイルのファイル名がすでに存在する場合は、さらに数字が繰り上がります。
- オーバードビング中は、トラックインクリメントはできません。






指定した時間で自動的にトラックインクリメントする

録音中に、自動機能 画面の 自動分割 項目で設定した時間に達すると、自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続します (オートトラックインクリメント機能)。

以下の手順で、自動的にトラックインクリメントする最大時間の設定を行います。

1.  /MENU/  ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1  ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。
3. F2  ボタンとF3  ボタンを使って 自動機能 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。自動機能 画面が表示されます。
4. F2  ボタンとF3  ボタンを使って 自動分割 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。自動分割 項目のパラメーター表示を開きます。









5. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、自動でトラックインクリメントしたい時間を設定します。
選択肢：切 (初期値)、5分、10分、15分、30分、60分
6. F4  ボタンを押して、選択した時間を確定します。設定が終了したら、 /MENU/  ボタンを押してホームに戻ります。

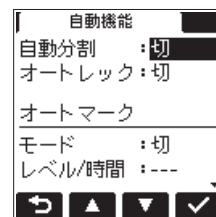
注意




フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。

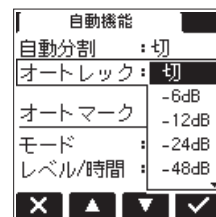
録音を自動で開始する (オートレック)






オートレック機能をオンにすると、入力音のレベルに応じて録音の開始や一時停止、またはファイルの更新を自動で行うことができます。

1.  /MENU/  ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1  ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。
3. F2  ボタンとF3  ボタンを使って 自動機能 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。自動機能 画面が表示されます。



4. F2  ボタンとF3  ボタンを使って オートレック 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。オートレック 項目のパラメーター表示を開きます。



5. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、オートレック機能が動くレベル (信号が入力されると判断する基準レベル) を選択します。
選択肢：切 (初期値)、-6dB、-12dB、-24dB、-48dB
6. F4  ボタンを押して、選択したオートレック機能が動くレベルを確定します。
7. 設定が終了したら、 /MENU/  ボタンを押してホーム画面に戻ります。

8. RECORDボタンを押し、録音待機状態にします。設定したオートレック機能が働くレベル値を枠として、レベルメーター上に表示され、レコーダー動作状態表示の右側に **AUTO** アイコンが表示されます。



入力音が **レベル** 項目で設定した基準レベルを上回ると自動で録音を開始します。

メモ

- 録音待機中は、RECORDインジケーターが通常録音時より速く点滅します。
 - 録音中に入力音が **レベル** 項目で設定した基準レベルを5秒以上にわたって下回ると録音待機状態になり、新しいファイルが作成されます。その後入力音が基準レベルを上回ると録音を再開します。
 - 新しいファイルが作成されると、ファイル名の末尾の数字が繰り上がります。
9. 録音を停止させる場合は、**HOME/MENU/STOP** ボタンを押してください。

注意

- フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。また、サンプリング周波数が96kHzの場合は、4秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成させるファイルのファイル名がすでに存在する場合は、さらに数字が繰り上がります。

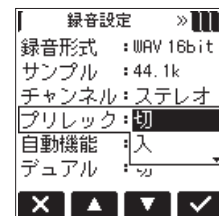
ヒント

プリレック機能と組み合わせることにより、音の出だし部分を欠かすことなく録音できます。

録音開始の少し前から録音する(プリレック)

録音待機中に入力される信号を最大2秒間録音しておき、録音開始時に最大2秒前からの信号を録音することができます。

- HOME/MENU/STOP** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
- F1 **RIGHT** ボタンを押して、**録音設定** ページを表示します。
- F2 **UP** ボタンと F3 **DOWN** ボタンを使って **プリレック** 項目のパラメーターを選択(反転表示)し、F4 **ENTER** ボタンを押します。**プリレック** 項目のパラメーター表示を開きます。



- F2 **UP** ボタンと F3 **DOWN** ボタンを使って、プリレック機能のオンにします。
選択肢: 切(初期値)、入
- F4 **ENTER** ボタンを押して設定を確定し、設定項目選択状態にします。
- 設定が終了したら、**HOME/MENU/STOP** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

ヒント





オートレック機能と組み合わせることにより、出音の部分を欠かすことなく録音できます。

メモ

- プリレック機能がオンのとき、録音画面のレコーダー動作状態表示の右側に **PRE** アイコンを表示します。
- 録音待機状態になってから2秒以内に録音を開始した場合は、録音待機状態にした時点からの録音となります。
- オーバーダビング時には動きません。

セルフタイマーを使って録音する (SELF TIMER)

カメラのセルフタイマーのように、設定時間経過後に録音を開始するように設定ができます。

1. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。
RECORDインジケーター (RECORDボタンの周囲) が点滅し、録音画面が表示されます。
2. F1  ボタンを押して、レコーダーの動作状態表示部にセルフタイマーアイコン  を表示します。
セルフタイマーアイコン  の下側に時間が表示され、F1  ボタンを押すたびに、以下のように設定が変わります。

アイコン下側の時間表示

非表示 (オフ) → 5S (5秒) → 10S (10秒) → 非表示 (オフ)



3. 時間を設定後、RECORDボタンを押します。
RECORDインジケーターが点滅が速くなり、設定時間経過後録音が始まります。







メモ

- 録音中に一時停止したときにはセルフタイマー機能は、使用できません。
- オートレック機能がオンでもセルフタイマーが有効になります。録音開始後は、オートレックの動作となります。




2種類のフォーマットで録音する (デュアルフォーマット録音)

本機は、Wi-Fi使ってスマートフォンへファイルを転送することができます。(→ 40ページ「本機とスマートフォンをWi-Fiで接続する」)


WAV / BWFは高音質ですがファイルサイズが大きく、Wi-Fiで転送するには不向きです。そこで本機ではWAV / BWFで録音しながら、Wi-Fi転送のためにファイルサイズの小さいMP3で同時に録音することができます。

1.  / MENU /  ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1  ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。
3. F2  ボタンとF3  ボタンを使って デュアル 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。
デュアル 項目のパラメーター表示を開きます。



4. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、ファイル形式を設定 (反転表示) します。
選択肢: 切 (初期値)、MP3 320k、MP3 256k、MP3 192k、MP3 128k、MP3 96k、MP3 64k、MP3 32k
5. F4  ボタンを押して設定を確認し、設定項目選択状態にします。

メモ

- デュアルフォーマット機能がオンのとき、録音画面のレコーダー動作状態表示の右側に  アイコンを表示します。
- デュアルフォーマット録音はフォーマットがWAV 16bit / BWF 16bit、サンプリング周波数が44.1k/48kHzの場合のみ使用できます。

再生音に入力音を重ねて録音する (オーバーダビング)

録音済みのファイルを再生しながら、その再生音に入力音を重ねて新たなファイルに録音することができます。

本機では、オーバーダビングの方法として2種類用意されています。

オーバーダブ

再生ファイルに入力音を重ねて録音するモードです。

ヘッドホンでモニターしながら、次々重ねていくことができます。

AIRDUB

カラオケのように再生音を伴奏として合唱や演奏を録音できるモードです。

このモードでは出力端子から再生音のみが出力されるため、外部モニターシステムに接続することにより外部モニターから出力される伴奏などの再生音と、その音に合わせた新たな演奏などが混ざった音を録音することができます。

メモ

- オーバーダビングモードでの録音フォーマット（録音形式 / サンプル / チャンネル）は、再生ファイルに従います。再生ファイル形式がモノラルのとき、入力もモノラル（L + R）となります。また、再生ファイル形式がステレオのときも同様に入力はステレオとなります。再生ファイル形式を確認する場合は、**ファイル情報** 画面にてご確認ください。（→ 46ページ「ファイル情報画面（ファイル情報）」）
- オーバーダビングモードでは、スピーカーから音は出ません。
- オーバーダビング中は、一時停止はできません（RECORDボタン操作を受け付けません）。
- オーバーダビングモードではセルフタイマー機能、プリレック機能、オートレック機能、デュアルフォーマット録音機能は使用できません。

入力音を重ねるファイルを選択する

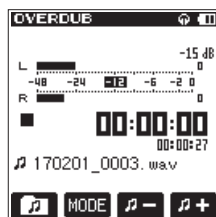
◀◀ / ▶▶ボタン、もしくはブラウズ画面で、音を重ねたいファイルを選択します。

メモ

ブラウズ画面を使ってのファイルの選択は、30ページ「第5章 ファイルやフォルダーの操作（ブラウズ画面）」をご参照ください。

オーバーダビングを実行する

1. ホーム画面表示中に、シーンダイヤルを「DUB」に設定します。オーバーダブ画面が表示され、入力音が入力されます。

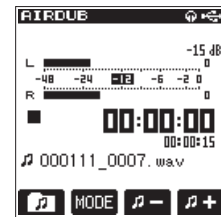


メモ

一時停止中および再生中にシーンダイヤルを「DUB」に設定すると強制的に停止し、オーバーダブ画面が表示されます。

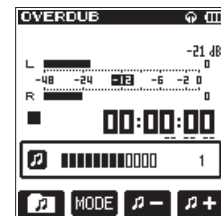
2. オーバーダビングモードを切り換えるには、F2 [MODE] ボタンを押します。オーバーダビングモードとエアダビングモードが交互に切り換わります。

選択したモード項目に合わせて、オーバーダブ画面またはAIRDUB画面が表示されます。

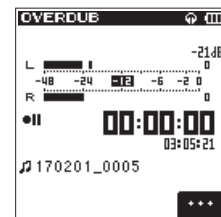


[AIRDUB モード時]

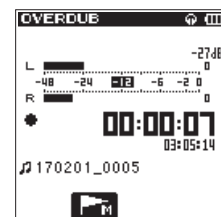
3. PLAYボタンを押してオーバーダビングするファイルを再生し、F3 [P-] ボタンとF4 [P+] ボタンを使って再生音の音量を調節します。



4. RECORDボタンを押して、録音待機状態にします。RECORDインジケーター（RECORDボタンの周囲）が点滅します。



5. 再度RECORDボタンを押します。オーバーダビングが始まります。



録音が始まるとRECORDインジケーターが点灯し、録音画面には録音経過時間および録音残時間が表示されます。再生可能なファイルが選択されていないときは、ポップアップメッセージ「ファイルがありません」が表示されます。

6. 録音を終了するには、↑/MENU/■ボタンを押します。

録音中にマークを付ける

録音中または録音待機中にファイルの任意の位置にマークを付け、ファイル再生時には素早くその位置に移動して再生することができます。(→ 27ページ「マークの位置への移動」)

マークを手動で付けるときは任意の位置にセットできますが、操作音が気になるときなどはレベル (LEVEL) や時間 (TIME) で自動的にセットすることもできます。

メモ

録音中または録音待機中は、マークの位置への移動はできません。

録音中に手動でマークを付ける

録音中または録音待機中にF2  ボタンを押すと、その位置にマークを付けることができます。

登録したマーク番号がディスプレイのアイコンの上にプルアップ表示されます。














メモ

- マークは、ファイルごとに最大99個付けることができ、ファイルにマークの情報を記録します。
- 本機で録音したBWF形式で録音されたWAVファイルは、録音中に付けたマークの情報がファイルへ保存されます。BWF対応ソフトなどで、このマーク情報を使用することができます。

録音中に自動でマークを付ける





オートマーク機能をオンにすると、設定した動作レベルや時間に応じて、自動的にマークを付けることができます。

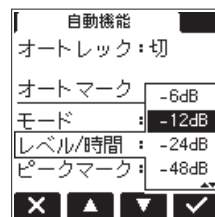
設定したレベルに応じて自動でマークを付ける






1.  /MENU/ ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1  ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。
3. F2  ボタンとF3  ボタンを使って 自動機能 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。自動機能 画面が表示されます。
4. F2  ボタンとF3  ボタンを使って オートマーク 項目のモード を選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。
5. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、自動でマークを付けるモードを レベル に設定します。














選択肢: 切 (初期値)、レベル、時間

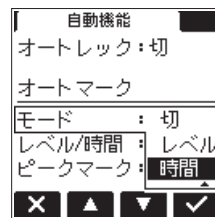
6. F4  ボタンを押して、設定した動作モードを確定します。
7. F2  ボタンとF3  ボタンを使って オートマーク 項目のレベル/時間 を選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。レベル/時間 項目のパラメーター表示を開きます。







8. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、自動でマークを付けるレベルを設定します。
選択肢: -6dB、-12dB (初期値)、-24dB、-48dB
9. F4  ボタンを押して、設定したレベルを確定します。
10. 設定が終了したら、 /MENU/ ボタンを押してホーム画面に戻ります。

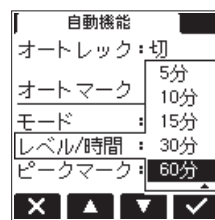
設定した時間に応じて自動でマークを付ける

1.  /MENU/ ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1  ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。
3. F2  ボタンとF3  ボタンを使って 自動機能 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。自動機能 画面が表示されます。
4. F2  ボタンとF3  ボタンを使って オートマーク 項目のモード を選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。
5. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、自動でマークを付けるモードを 時間 に設定します。



選択肢: 切 (初期値)、レベル、時間

6. F4  ボタンを押して、設定した動作モードを確定します。
7. F2  ボタンとF3  ボタンを使って オートマーク 項目のレベル/時間 を選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。レベル/時間 項目のパラメーター表示を開きます。



8. F2 ボタンとF3 ボタンを使って、自動でマークを付ける時間を設定します。
 選択肢：5分、10分、15分、30分、60分（初期値）
9. F4 ボタンを押して、設定した時間を確定します。
10. 設定が終了したら、/MENU/ ボタンを押してホーム画面に戻ります。

マークの位置への移動

停止中または再生中に、選択されているファイルに挿入されているマークの位置へ移動することができます。頭出しのためのインデックスのように使用することができます。ファイルに付けることのできるマークの種類が複数（マニュアル/レベル/時間/ピーク）があるため、マークの位置への移動の際に、どのマークに移動するかを設定することができます。

1. /MENU/ ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1 ボタンを使って、ツール ページを表示します。
3. F2 ボタンとF3 ボタンを使って、マークスキップモード 項目のパラメーターを選択（反転表示）を選択し、F4 ボタンを押します。
 マークスキップモード 項目のパラメーター表示を開きます。



4. F2 ボタンとF3 ボタンを使って、マークスキップモードを設定します。

選択肢

全部（初期値）	：全てのマークに移動
MARK	：手動で付けたマークにのみ移動
LEVEL	：オートマーク機能の レベル で付けたマークにのみ移動
TIME	：オートマーク機能の 時間 で付けたマークにのみ移動
PEAK	：PEAKインジケータ点灯時に付けたマークにのみ移動
切	：マークに移動しない

5. F4 ボタンを押して、設定を確定します。
6. 設定が終了したら、/MENU/ ボタンを押してホーム画面に戻ります。
7. 停止中または再生中にF2 ボタンを押しながら、 ボタンまたは ボタンを押します。

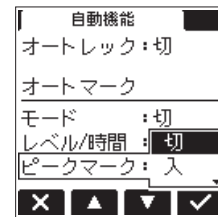
メモ

異なるファイルのマークへの移動はできません。

PEAKインジケータ点灯時に自動でマークを付ける

録音中にPEAKインジケータが点灯したときに、自動的にマークを付けます。

1. /MENU/ ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1 ボタンを押して、録音設定 ページを表示します。
3. F2 ボタンとF3 ボタンを使って **自動機能** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、F4 ボタンを押します。
 自動機能 画面が表示されます。
4. F2 ボタンとF3 ボタンを使って **ピークマーク** 項目を選択（反転表示）し、F4 ボタンを押します。
 ピークマーク 項目のパラメーター表示を開きます。



5. F2 ボタンとF3 ボタンを使って、ピークマーク機能を「入」に設定します。
 選択肢：切（初期値）、入
6. F4 ボタンを押して、設定を確定します。
7. 設定が終了したら、/MENU/ ボタンを押してホーム画面に戻ります。

メモ

- PEAKインジケータ点灯の2秒手前にマークを付けます。
- PEAKインジケータ点灯によるマークが付いてから10秒間は、新たにPEAKインジケータ点灯によるマークとオートマークの「LEVEL」によるマークは付きません。
- オートディバインド機能を使用する際に、PEAKインジケータ点灯によるマークでは分割されません。

第4章 録音

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、microSD / microSDHC / microSDXCカード容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイルフォーマット (録音時の設定)		microSD / microSDHC / microSDXCカード容量				
		1GB	4GB	8GB	32GB	
WAV / BWF 16ビット (STEREO)	44.1kHz	1時間34分	6時間17分	12時間35分	50時間23分	
	48kHz	1時間26分	5時間47分	11時間34分	46時間17分	
	96kHz	43分	2時間53分	5時間47分	23時間08分	
WAV / BWF 24ビット (STEREO)	44.1kHz	1時間02分	4時間11分	8時間23分	33時間35分	
	48kHz	57分	3時間51分	7時間42分	30時間51分	
	96kHz	28分	1時間55分	3時間51分	15時間25分	
MP3 (STEREO / MONO)	32kbps	44.1kHz / 48kHz	69時間26分	277時間	555時間	2222時間
	64kbps	44.1kHz / 48kHz	34時間43分	138時間	277時間	1111時間
	96kbps	44.1kHz / 48kHz	23時間08分	92時間35分	185時間	740時間
	128kbps	44.1kHz / 48kHz	17時間21分	69時間26分	138時間	555時間
	192kbps	44.1kHz / 48kHz	11時間34分	46時間17分	92時間35分	370時間
	256kbps	44.1kHz / 48kHz	8時間40分	34時間43分	69時間26分	277時間
	320kbps	44.1kHz / 48kHz	6時間56分	27時間46分	55時間33分	222時間


- 上記録音時間は理論値であり、ご使用のmicroSD / microSDHC / microSDXCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、microSD / microSDHC / microSDXCカードに可能な録音合計時間です。
- 録音時間が24時間を超えると、自動的に新しいファイルを作成し、録音を継続します。
- WAV形式のMONO録音の場合は、上記録音時間の約2倍の時間となります。

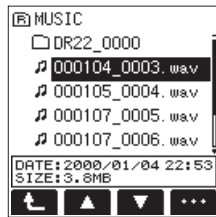
第5章 ファイルやフォルダーの操作（ブラウズ画面）

ブラウズ画面では、microSDカード上の **MUSIC** フォルダ（オーディオファイルの格納フォルダ）の内容の閲覧、ファイルやフォルダの削除、フォルダの新規作成などを行うことができます。

ヒント

本機とパソコンをUSB接続するか、あるいはmicroSDカードを直接パソコンにセットすることにより、パソコンからも **MUSIC** フォルダ内のフォルダ構成の変更やファイルの削除ができます。さらにパソコンからはファイル名の編集が可能です。

ブラウズ画面を表示するには、停止中／一時停止中でホーム画面表示中に **F1**  ボタンを押します。







この画面には、ブラウズ画面を表示する前に、ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダの内容が表示されます。

ブラウズ画面内のナビゲーション

ブラウズ画面にフォルダや音楽ファイルが「階層ツリー形式」で表示されます。

フォルダは、第2階層まで作成できます。

- **F2**  ボタンと **F3**  ボタンを使って、ファイルやフォルダを選択（反転表示）します。
- ファイルやフォルダを選択中に **F1**  ボタンを押すと、1つ上の階層に移動します。
- ファイルやフォルダを選択中に **F4**  ボタンを押すと、ポップアップメニューが表示されます。
- ファイルを選択中に **PLAY** ボタンを押すと、ホーム画面に戻ってそのファイルが再生されます。
このファイルを含むフォルダがカレントフォルダ（現在選択されているフォルダ）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。

ブラウズ画面内のアイコン表示

以下にブラウズ画面内のアイコン表示内容を説明します。

MUSICフォルダ

ルート（ROOT）階層表示中のブラウズ画面では、最上段に **MUSIC** フォルダが表示されます。

オーディオファイル

音楽ファイルです。

選択中のオーディオファイル

現在選択中の音楽ファイルです。

フォルダ

内部にフォルダが存在するフォルダです。

フォルダ

内部にフォルダが存在しないフォルダです。


表示中のフォルダ

現在、このフォルダの内容を画面表示しています。




新しいフォルダ


新しいフォルダを作成します。

ファイル操作

ブラウズ画面内の希望のオーディオファイルを選択（反転表示）し、**F4**  ボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



F2  ボタンと **F3**  ボタンを使って項目を選択（反転表示）し、**F4**  ボタンを押すと選択した項目に応じて以下の動作を行います。

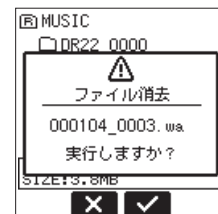
F1  ボタンを押すと、ポップアップメニューを閉じます。



ファイル選択

ホーム画面に戻り、選択したファイルを再生します。


ファイル消去

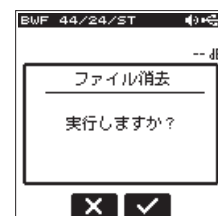
選択したファイルの削除を確認するポップアップメッセージが表示されます。





F3  ボタンを押すとファイルが削除され、**F2**  ボタンを押すと削除が中止されます。

メモ


ホーム画面表示中に **F4**  ボタンを押すと、選択中のファイルの削除を確認するポップアップメッセージが表示されます。






F3  ボタンを押すとファイルが削除され、**F2**  ボタンを押すと削除が中止されます。


第5章 ファイルやフォルダーの操作（ブラウズ画面）

フォルダー操作

ブラウズ画面内の希望のフォルダーを選択し、**F4**  ボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



F2  ボタンと**F3**  ボタンを使って項目を選択（反転表示）し、**F4**  ボタンを押すと選択した項目に応じて以下の動作を行います。

F1  ボタンを押すと、ポップアップメニューを閉じます。

開く

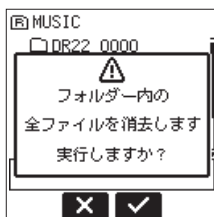
選択したフォルダーを開きます。

フォルダー選択

ホーム画面に戻り、選択したフォルダー内の最初のファイルが選択されます。また、この操作で選択されたフォルダーに、録音したファイルが保存されます。

全ファイル消去

選択したフォルダー内のファイルを一括削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。



F3  ボタンを押すとファイルが削除され、**F2**  ボタンを押すと削除が中止されます。

メモ

書き込み禁止ファイルや本機で認識されていないファイルは、削除できません。




上位フォルダーに移動するには

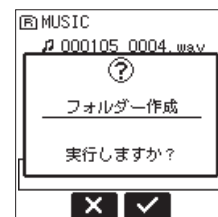
上位フォルダーに移動する場合は、**F1**  ボタンを押します。



新しいフォルダーを作る

各フォルダーの一番下には、**フォルダー作成** があります。



1. **F2**  ボタンと**F3**  ボタンを使って **フォルダー作成** を選択（反転表示）し、**F4**  ボタンを押します。クイックメニューがポップアップ表示されます。新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。






2. **F3**  ボタンを押すと新しいフォルダーが作成されます。**F2**  ボタンを押すとフォルダーの作成を中止します。

メモ


本機では3階層以上のフォルダーを扱うことはできないため、第2階層のフォルダーには **フォルダー作成** はありません。新規に作成されたフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。

ファイルをプロテクトする



ファイルをプロテクトし、読み取り専用ファイルに変更します。

1. ブラウズ画面で、プロテクトしたいファイルを選択（反転表示）します。
2. **F4**  ボタンを押して、ポップアップメニューを表示します。
3. **F2**  ボタンと**F3**  ボタンを使って、**保護設定** 項目を選択（反転表示）します。



4. **F4**  ボタンを押します。
 選択したファイルをプロテクトする確認のポップアップメッセージ **保護設定** が表示されます。
 すでにファイルがプロテクトされている場合は、**保護解除** が表示されます。






5. **F3**  ボタンを押すと、ファイルがプロテクトされブラウズ画面に戻ります。すでにファイルがプロテクトされている場合は、プロテクトが解除されブラウズ画面に戻ります。
F2  ボタンを押すと、プロテクトが中止されブラウズ画面に戻ります。


メモ

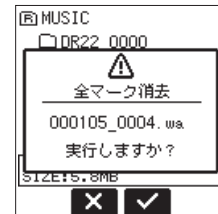
プロテクトされると、ブラウズ画面の左側にアイコンが表示されます。



マークを全て削除する

1. ブラウズ画面で、全てのマークを削除したいファイルを選択（反転表示）します。
2. **F4**  ボタンを押して、ポップアップメニューを表示します。
3. **F2**  ボタンと**F3**  ボタンを使って、**全マーク消去** 項目を選択（反転表示）します。






4. **F4**  ボタンを押します。
 以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。




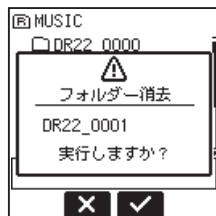
5. **F3**  ボタンを押すと、マークを削除します。
 マークを削除しない場合は、**F2**  ボタンを押します。

空フォルダーを削除する

1. ブラウズ画面で、削除したいフォルダーを選択（反転表示）します。
2. **F4**  ボタンを押して、ポップアップメニューを表示します。
3. **F2**  ボタンと**F3**  ボタンを使って、**フォルダー消去** 項目を選択（反転表示）します。





4. **F4**  ボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



メモ

フォルダーが空でない場合は、「全ファイル消去を先に行ってください」と表示されます。

5. **F3**  ボタンを押すと、空フォルダーを削除します。
空フォルダーを削除しない場合は、**F2**  ボタンを押します。

再生する

ホーム画面で停止中に**PLAY**ボタンを押すと、再生を始めます。

メモ

ブラウズ画面でファイル名を選択して再生させることもできます。

一時停止する／停止する

ホーム画面で再生中に **HOME/MENU/STOP** ボタンを押すと、その位置で再生を停止します。(一時停止)

ファイルの途中で停止しているときは、動作アイコン「**||**」を表示します。

REWIND ボタンまたは **FF** ボタンを押してファイルの先頭で停止している時は「**■**」を表示します。

再度**PLAY**ボタンを押すと、その位置から再生を始めます。

早戻し／早送りをする (サーチ)

ホーム画面で再生中に **REWIND** ボタン / **FF** ボタンを押し続けると、早戻し／早送りサーチを行います。

メモ

REWIND ボタン / **FF** ボタンを押し続けるとサーチスピードが加速してゆきます。

再生するファイルを選択する (スキップ)

ホーム画面で、**REWIND** ボタンまたは **FF** ボタンを押して、再生したいファイルを選択します。

ファイルの途中で **REWIND** ボタンを押すとファイルの先頭へ戻り、ファイルの先頭で **REWIND** ボタンを押すと1つ前のファイルの先頭にスキップします。ファイルの先頭、または途中で **FF** ボタンを押すと、次のファイルへスキップします。

特殊な再生 (プラクティスモード)

プラクティスモードは、楽器を練習するのに便利なモードです。ホーム画面で停止中／一時停止中／再生中に**シーンダイヤル**を「**★**」に設定すると **練習** 画面が表示され、プラクティスモードになります。



この画面では、ループ再生、再生スピードの変更、キーの変更の設定ができます。

F1 **FILE** ボタンを押して、ブラウズ画面から再生したいファイルを選択してください。

プラクティスモードを終了する場合は、**シーンダイヤル**を他のシーンに切り換えます。

F2 **MIC** ボタンを押すと、入力音のモニターのオン／オフができます。モニターがオフのとき、**MIC** アイコンが画面上部に表示されます。入力音の音量は調節が可能です。(→ 20ページ「入力レベルを調節する」)

メモ

プラクティスモードでは、ファイルスキップはできません。

ループ再生する

ファイル内の一部または全部の区間を繰り返し再生 (ループ再生) することができます。

IN点、OUT点をセットする

1. **練習** 画面を表示中に**F3** **LOOP** ボタンを押して **ループ** 項目を選択 (反転表示) し、**F4** **SET** ボタンを押すとループ再生の設定が可能となります。



2. ループ再生したい区間の始点まで移動し、**F2** **IN** ボタンを押します。現在位置がIN点 (始点) として設定されます。再生位置表示バーの上部には、該当する位置に「**I**」が点灯します。
3. ループ再生したい区間の終点で**F3** **OUT** ボタンを押します。現在位置がOUT点 (終点) として設定され、IN-OUT点間のループ再生が開始されます。再生位置表示バーの上部には、該当する位置に「**O**」が点灯します。

メモ

- IN-OUT点間が短すぎる場合には、「**間隔が短かすぎます**」というポップアップメッセージが表示されます。1秒以上空けて設定し直してください。
- MP3ファイルがVBR形式の場合は、正確なIN点 (始点) およびOUT点 (終点) の指定ができない場合があります。

IN点、OUT点をクリアする

停止中に **REWIND** ボタンまたは **FF** ボタンを押すとIN点 (始点)、OUT点 (終点) にスキップできます。

停止中にIN点 (始点) にスキップし、**F2** **IN** ボタンを押すとIN点 (始点) をクリアできます。

停止中にOUT点 (終点) にスキップし、**F3** **OUT** ボタンを押すとOUT点 (終点) をクリアできます。

ループ再生する

F1 **LOOP** ボタンを押すと、ループ再生機能のオン／オフができます。ループ再生機能がオンのときは、**LOOP** アイコンが画面上部に表示されます。また、ループ再生機能がオフのときでも設定は保持されます。ループ再生はIN点 (始点) / OUT点 (終点) の設定によって、以下の通りのループ再生を行います。

IN点のみ設定	IN点 → 最後までループ再生
OUT点のみ設定	最初 → OUT点までのループ再生
IN点 / OUT点ともに設定	IN点-OUT点間のループ再生
IN点 / OUT点ともに設定なし	最初から最後までループ再生

再生スピードを変える (VSA機能)

本機では、VSA機能 (Variable Speed Audition) が搭載されており、再生音の音程を保ったまま再生スピードを変えることができます。

注意

サンプリング周波数96kHzで録音されたファイルを選択しているときには、VSA機能は使用できません。

1. 練習 画面を表示中にF3 ボタンを押して **速さ** 項目を選択 (反転表示) し、F4 ボタンを押して再生スピード変更可能な状態にします。



2. F2 ボタンとF3 ボタンを使って、再生スピードの値を変更します。
選択肢: $\times 0.5 \sim \times 2.0$ (初期値: $\times 1.0$ 、 $\times 0.1$ 刻み)
3. F4 ボタンを押して値を確定し、項目選択状態に戻します。
4. PLAYボタンを押して、再生します。

メモ

F1 ボタンを押すと、スピード変更とキー変更 (音程、微調) を同時に入/切することができます。また、設定は保持されます。

キーを変える

本機では、キーコントロール機能を使って再生時のキー (音の高さ) を変えることができます。

KEYモードとFINE TUNEモードがあり、KEYでは ± 6 半音の範囲、FINE TUNEでは ± 50 セントの範囲でキーを調節できます。

1. 練習 画面を表示中にF3 ボタンを押して **音程** 項目または **微調** 項目を選択 (反転表示) し、F4 ボタンを押してキーを変更可能な状態にします。



[音程 項目のポップアップ表示]



[微調 項目のポップアップ表示]

2. F2 ボタンとF3 ボタンを使って、キーの値を変更します。

選択肢

音程 選択時: $\#6 \sim \#6$ (初期値: 0 、半音刻み)

微調 選択時: $-50 \sim +50$ (初期値: 0 、1セント刻み)

3. F4 ボタンを押して値を確定し、項目選択状態に戻します。
4. PLAYボタンを押して再生します。

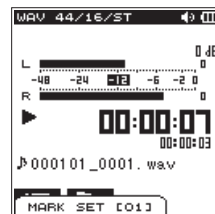
メモ

F1 ボタンを押すと、スピード変更とキー変更 (音程、微調) を同時に入/切することができます。また、設定は保持されます。

再生中に手動でマークを付ける

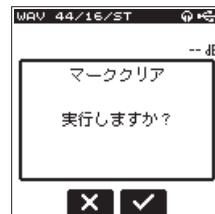
再生中にF2 ボタンを押すと、その位置にマークを付けることができます。

登録したマーク番号がディスプレイの下部にプルアップ表示されます。



指定したマークを消去する

すでにマークのある位置で一時停止中、F2 ボタンを押すとマークを消去することができます。



選択ファイルを分割する

録音したファイルを手動で、またはマークを付けた位置でファイルを分割することができます。

注意

- MP3ファイルは、分割できません。
- microSDカードの残容量が少ない場合は、分割できない場合があります。
- ファイル名が200文字以上になる場合は、分割できません。
- 分割後のファイル名と同名のファイルが存在する場合は、分割できません。

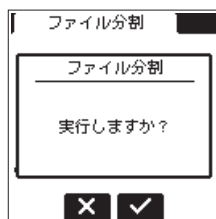
選択ファイルを手動で分割する（ファイル分割）

録音したファイルを任意の位置で、2つのファイルに分割することができます。

1. ◀▶ ボタンまたは ▶▶ ボタン、もしくはブラウザ画面で、分割したいファイルを選択します。
2. 🏠/MENU/■ ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
3. F1 ▶▶ ボタンを使って、ツール ページを表示します。
4. F2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って、ファイル分割 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、F4 ☑ ボタンを押します。
ファイル分割 画面が表示されます。



5. F2 ◀▶ ボタンとF3 ▶▶ ボタンを使って分割する位置を決定し、F4 ☑ ボタンを押します。
以下のポップアップメッセージが表示されます。



6. F3 ☑ ボタンを押すとファイルが分割され、ホーム画面に戻ります。
F2 ✕ ボタンを押すと、分割されずに ファイル分割 画面に戻ります。
7. 設定が終了したら、🏠/MENU/■ ボタンを押します。

メモ

- ファイル分割 画面表示中にPLAYボタンを押し、再生しながら位置を決めることもできます。
- ファイル分割 画面表示中は、PLAYボタンを押すたびに再生/一時停止を切り換え、◀▶ ボタンで曲の先頭に、▶▶ ボタンで曲の最後に移動します。F2 ◀▶ ボタンとF3 ▶▶ ボタンを押すと分割位置の微調整が行え、長く押すと連続移動できます。
- 分割すると、ファイル名の末尾に「a」または「b」が付加されたファイルが作成されます。

イルが作成されます。

(例)

分割前のファイル名
140826_0001.wav
分割後のファイル名
140826_0001a.wav (分割点より前の部分)
140826_0001b.wav (分割点よりあとの部分)

ヒント

録音中にあらかじめ分割したい位置にマークを付けておくことができます。(→ 26ページ「録音中にマークを付ける」)

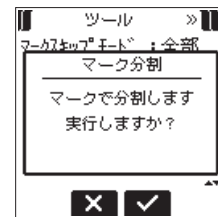
選択ファイルを自動で分割する（マーク分割）

オートディバイド機能を使って、録音済みのファイルのマークが付けられた位置でファイルを自動で分割することができます。

メモ

マークの付け方は、26ページ「録音中にマークを付ける」をご参照ください。

1. ◀▶ ボタンまたは ▶▶ ボタン、もしくはブラウザ画面で、分割したいファイルを選択します。
2. 🏠/MENU/■ ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
3. F1 ▶▶ ボタンを押して、ツール ページを表示します。
4. F2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って、マーク分割 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、F4 ☑ ボタンを押します。
以下のポップアップメッセージが表示されます。



5. F3 ☑ ボタンを押すと、ファイルが分割されます。
F2 ✕ ボタンを押すと、分割されずに ツール ページに戻ります。
6. 設定が終了したら、🏠/MENU/■ ボタンを押します。

注意

マーク間の長さが2秒以下の部分が1箇所でもあると、自動で分割できません。

メモ

- 分割すると、ファイル名の末尾に「_1 / _2 / _3」のように順番に数字が付加されたファイルが作成されます。
(例) マークが2箇所
分割前のファイル名
140826_0001.wav
分割後のファイル名
140826_0001_1.wav
140826_0001_2.wav
140826_0001_3.wav
- オートマーク機能と併用することで、長時間録音されたファイルを自動で曲ごとに分割することができます。(→ 26ページ「録音中に自動でマークを付ける」)

リバーブ機能

本機には、リバーブが内蔵されており、入力音または出力音に残響音を加えることができます。

リバーブがオンのときは、ホーム画面上部の **REVB** アイコンが表示されます。



リバーブを設定する

1. **HOME/MENU/ENTER** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1** **RIGHT** ボタンを使って、**ツール** ページを表示します。
3. **F2** **UP** ボタンと **F3** **DOWN** ボタンを使って、**リバーブ** 項目のパラメーターを選択（反転表示）を選択し、**F4** **ENTER** ボタンを押します。
リバーブ 画面が表示されます。



メモ

録音待機時にも調節できるように、録音待機中に入力設定画面の **リバーブ** ページからも設定できます。

4. **リバーブ** 画面では、以下の項目の設定を設定します。
リバーブ：
 リバーブの入 / 切 設定をします。(初期値：切)
タイプ：
 使用するリバーブをプリセットの中から設定します。リバーブのプリセットの内容については、36 ページの「リバーブのプリセット一覧」をご覧ください。
レベル：
 リバーブの出力レベルを変更することができます。
 設定範囲は、0 ~ 100 です。(初期値：70)
モード：
 リバーブをかけるモードを設定します。

MODE (選択肢)	アイコン	内容
モニター (初期値)	REVB	出力音に残響音を加えることができます。 録音される音には影響ありません。
掛け録り	REVB	入力音に残響音を加えることができます。 残響音を加えた音を録音することができます。

5. **F2** **UP** ボタンと **F3** **DOWN** ボタンを使って設定する項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** **ENTER** ボタンを押します。
6. **F2** **UP** ボタンと **F3** **DOWN** ボタンを使って、希望の選択肢 / 値に設定します。
7. **F4** **ENTER** ボタンを押して値を確定し、設定項目状態にします。
8. 必要に応じて、手順4. ~ 7.の操作を繰り返します。
9. 設定が終了したら、**HOME/MENU/ENTER** ボタンを押します。

注意

サンプリング周波数を96kHzに設定しているとき、または選択している再生ファイルのサンプリング周波数が96kHzのときは、リバーブ機能は動きません（設定をすることは可能です）。

メモ

録音待機中に録音画面の **F4** **REVB** ボタンを押して表示される 入力設定画面の **リバーブ** ページでも、リバーブ機能のオン / オフの設定が可能です。

リバーブのプリセット一覧

プリセットネーム	効果
ホール 1 (初期値)	ホールのような広い空間をイメージしたブライトなリバーブです。
ホール 2	ホールのような広い空間をイメージしたウォームなリバーブです。
ルーム	小さな室内の空間をイメージしたリバーブです。
スタジオ	スタジオのような空間をイメージしたリバーブです。
プレート 1	ブライトなプレートリバーブです。
プレート 2	ウォームなプレートリバーブです。

XRI 情報記録機能を設定する

ファイル形式がBWFで録音する際に、録音した時のXRI 情報 (eXtended Recording Information、入力ボリューム等の録音設定情報) を記録することができます。

1. **HOME/MENU/■** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1 >>** ボタンを使って、**ツール** ページを表示します。
3. **F2 ▲** ボタンと**F3 ▼** ボタンを使って **XRIモード** 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、**F4 ✓** ボタンを押します。**XRIモード** 項目のパラメーター表示を開きます。



4. **F2 ▲** ボタンと**F3 ▼** ボタンを使ってXRI 情報記録機能のモードを設定します。

選択肢

- 切 : XRI 情報を記録しない
- 入 (初期値) : XRI 情報を記録する
- 入+GPS : XRI 情報とGPS情報を記録する

5. **F4 ✓** ボタンを押して、設定を確定します。
6. 設定が終了したら、**HOME/MENU/■** ボタンを押してホーム画面に戻ります。

注意

GPS情報は、専用アプリケーション (DR CONTROL) から取得します。そのため、本体のみでは情報を取得することはできません。取得する情報は、以下になります。

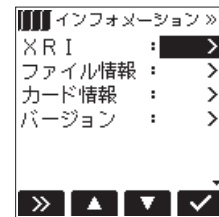
- 緯度 : 緯度情報
- 経度 : 経度情報

XRI 情報を見る

BWF対応WAVファイルに記録したXRI 情報およびGPS情報を **HRI** 画面で確認することができます。

以下の手順で **HRI** 画面を表示します。

1. **◀◀** ボタンまたは**▶▶** ボタン、もしくはブラウザ画面で、XRI 情報を見たいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中に**HOME/MENU/■** ボタンを押して、メニューを表示します。
3. **F1 >>** ボタンを押して、**インフォメーション** ページを表示します。
4. **F2 ▲** ボタンと**F3 ▼** ボタンを使って **XRI** 項目のパラメーターを選択 (反転表示) します。




5. **F4 ✓** ボタンを押すと **HRI** 画面が表示され、以下のXRI 情報が表示されます。
XRI 情報が記録されていない場合は、「-」と表示されます。

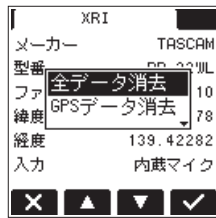




6. メニュー画面の **インフォメーション** ページに戻るには、**F1 ◀** ボタンを押します。

XRI 情報を削除する

XRI 情報またはGPS情報を削除します。


1. XRI 画面でF4  ボタンを押して、ポップアップメニューを表示します。

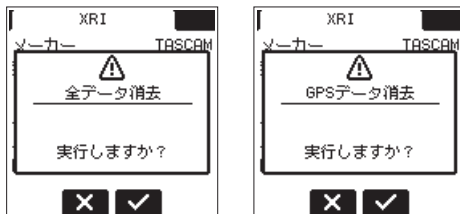






2. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、削除する情報の範囲を選択 (反転表示) します。

選択肢

- 全データ消去 : XRI 情報とGPS情報を削除します。
- GPSデータ消去 : GPS情報のみを削除します。







3. F4  ボタンを押します。
以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. F3  ボタンを押して、選択した範囲の情報が削除します。
選択した範囲の情報を削除しない場合は、F2  ボタンを押します。
5. 設定が終了したら、 /MENU/ ボタンを押してホーム画面に戻ります。

メトロノーム機能

本機にはメトロノーム機能が搭載されており、楽器の練習などに便利です。

1.  /MENU/ ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1  ボタンを使って、ツール ページを表示します。
3. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、メトロノーム 項目を選択 (反転表示) を選択し、F4  ボタンを押します。
メトロノーム 画面が表示されます。



4. メトロノーム 画面では、以下の項目の設定を設定します。

テンポ

スピードを 20 ~ 250 (BPM) の範囲で設定します。
(初期値 : 120)

ビート








拍子を 1 ~ 9 の範囲で設定します。(初期値 : 4)
拍子の1拍目にアクセントが付きま。

音色

拍子の音を クリック、スティック、ベル の中から設定します。(初期値 : クリック)

レベル

メトロノームの音量を 0 ~ 100 の範囲で設定します。
(初期値 : 50)

5. F2  ボタンとF3  ボタンを使って設定する項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、F4  ボタンを押します。
6. F2  ボタンとF3  ボタンを使って、希望の選択肢/値に設定します。
7. F4  ボタンを押して値を確認し、設定項目状態にします。
8. 必要に応じて、手順5. ~ 7.の操作を繰り返します。
9. メトロノームをスタートするには、PLAYボタンを押します。
動作中のメトロノームを止めるには、PLAYボタンを押します。
10. F1  ボタンを押すと、ツール ページに戻ります。

第8章 パソコンと接続する

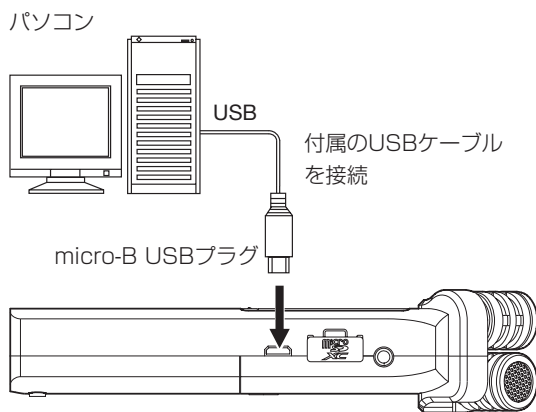
本機をパソコンと付属のUSBケーブルで接続することで、本機のmicroSDカードの中の音声ファイルをパソコンに取り出したり、パソコンの中の音声ファイルを本機に取り込んだりすることができます。

本機で取り扱うことができる音声ファイル形式は、以下の通りです。

WAV : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット

BWF : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット

MP3 : 44.1k/48kHz, 32k/64k/96k/128k/192k/256k/320kbps



メモ

- 本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からmicroSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。
- WAV / BWFファイルの拡張子は、どちらも**«.wav**となります。

注意

- USBを接続し「PC接続」を選択（反転表示）した場合は、本機での操作はできません。
- パソコンとの接続は、ハブを経由せずに直接接続してください。

電源がオンのときにUSB接続すると、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで駆動するか、パソコンとUSB接続するかを選択する**USBモード**画面が表示されます。



F2 ボタンとF3 ボタンを使って「PC接続」を選択（反転表示）し、F4 ボタンを押すと本機がパソコンに接続され、ディスプレイに「USB 接続中」が表示されます。



本機にmicroSDカードが正しく挿入されていることを確認してください。

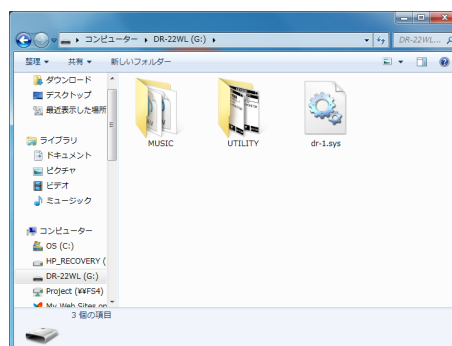
メモ

電池をセットした状態で、USB接続した場合は、USBから電源が供給されます。（USBバスパワー優先）

microSDカードが正しく挿入されていない状態でUSB接続を行うと、ポップアップメッセージ「保存できません」が表示されます。**《コンピュータ》**を開くと、パソコンのディスプレイ上に、本機が**《DR-22WL》**というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます。

パソコンへファイルを取り出す

1. パソコンのディスプレイ上の**《DR-22WL》**ドライブをクリックすると、**《MUSIC》**フォルダーと**《UTILITY》**フォルダーが表示されます。
2. **《MUSIC》**フォルダーを開き、パソコンに取り出したいファイルを任意の場所にドラッグ&ドロップします。



パソコンからファイルを取り込む

1. パソコンのディスプレイ上の**《DR-22WL》**ドライブをクリックすると、**《MUSIC》**フォルダーと**《UTILITY》**フォルダーが表示されます。
2. パソコンの任意の音声ファイルを**《MUSIC》**フォルダーにドラッグ&ドロップします。

ヒント

- パソコン上の操作で、**《MUSIC》**フォルダー内を管理することができます。
- **《MUSIC》**フォルダー内にサブフォルダーを作成することができます。サブフォルダーは、2階層まで作成できます。本機では、3階層以下のサブフォルダーおよびファイルは認識できません。
- サブフォルダーや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機のホーム画面上やブラウザ画面上に表示されます。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USBケーブルを外します。

シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフになります。パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

第9章 Wi-Fiを使う

注意

本製品は、販売地域での法令および規制に準拠するように設計されており、必要に応じた表示がされています。

本製品は、以下の国/地域での使用が承認されています。

アメリカ合衆国、カナダ、欧州（EU加盟国）、オーストラリア、ニュージーランド、日本

上記以外の国々において無線機能を使用した場合、一部の国ではその国の電波法に違反となる恐れがあります。

上記以外の国々においての使用については、当社は一切の責任を負いかねます。

ヒント

Wi-Fi使用中は電池の消耗が早くなります。

データ転送中に電池がなくなると転送が途中で終了し、転送失敗の恐れがあります。

Wi-Fi使用時には、ACアダプターまたはUSBバスパワーのご使用をお勧めします。

本機とスマートフォンをWi-Fiで接続する

無料の専用アプリケーション（DR CONTROL）を使って、本体をスマートフォンから遠隔操作することができます。

再生、停止などのトランスポートコントロールだけでなく、入力レベルの調整や録音したファイルの転送などもWi-Fi経由で行うことができます。

専用アプリケーション（DR CONTROL）の入手・インストール方法

1. スマートフォンをインターネットに接続してください。
2. Android端末の場合はGoogle Playから、iOS端末の場合はApp Storeから専用アプリケーション（DR CONTROL）を検索し、ダウンロードおよびインストールを実施してください。

Wi-Fiモードの選択

使用環境に合わせて、2つの接続方式が選択可能です。

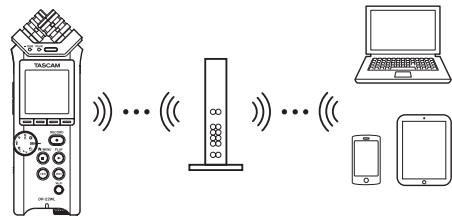
直接接続モード

本機がアクセスポイントとして働き、パソコンやスマートフォンなどの外部機器と本機をWi-Fi接続することが可能です。



ルーター経由モード

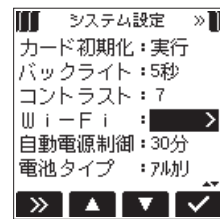
既存のWi-Fiルーターを介してパソコンやスマートフォンなどの外部機器とWi-Fi接続することにより、より自由度の高い設置が可能です。また、インターネットとの同時接続が可能になり、ファイルの共有、位置情報の確認等がより快適に行えます。



本機と外部機器（スマートフォン/タブレット/パソコン）を直接Wi-Fi接続する（直接接続モード）

Wi-Fiモードを直接接続に設定する

1. **HOME/MENU/ENTER** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1** **RIGHT** ボタンを押して、システム設定 ページを表示します。
3. **F2** **UP** ボタンと**F3** **DOWN** ボタンを使って、Wi-Fi 項目のパラメーターを選択（反転表示）します。



4. **F4** **ENTER** ボタンを押して、Wi-Fi 画面を表示します。
5. **F2** **UP** ボタンと**F3** **DOWN** ボタンを使って、モード 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** **ENTER** ボタンを押します。
6. **F2** **UP** ボタンと**F3** **DOWN** ボタンを使って、Wi-Fiモードを「直接接続」に設定します。

選択肢：直接接続（初期値）、ルーター経由




本機とスマートフォンをはじめてWi-Fi接続する

本機とスマートフォンのWi-Fi接続では1対1での接続となりますので、ルーターなどの外部機器、およびWi-Fiネットワーク環境は必要ありません。本機とスマートフォンだけで接続を行うことができます。

メモ

本機とスマートフォンをWi-Fi接続中、スマートフォンを外部のWi-Fiネットワークに接続することはできません。

1. 本機のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケータを点滅させます。
ディスプレイに新規接続であるかどうかを問うポップアップメッセージ「**新規接続ですか？**」が表示されます。
2. はじめての接続なので、**F3**  ボタンを押します。



3. ディスプレーに「SSID」と「パスワード」が表示されます。



メモ

「SSID」とは、無線LANにおけるアクセスポイント（無線LAN機器）の名称です。

4. 端末の《設定》→《Wi-Fi》を選択します。

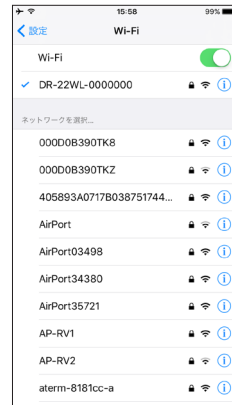


[iOS端末の表示例]



[Android端末の表示例]

5. 端末のWi-FiをオンにするとWi-Fi機器のSSID一覧が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。



[iOS 端末の表示例] [Android 端末の表示例]


6. 端末にパスワード入力画面が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているパスワードを入力します。
7. 本機とスマートフォンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケータが点灯になります。

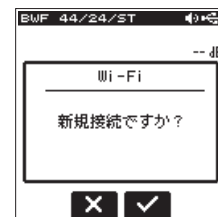
メモ

上記の端末の操作説明は、スマートフォンの設定例です。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

本機とスマートフォンをWi-Fi接続する場合（2回目以降）

一度接続を行った本機とスマートフォンにおいては、2回目以降はSSIDを選択するだけで接続することができます。

1. 本機のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケータを点滅させます。
ディスプレイに新規接続であるかどうかを問うポップアップメッセージ「**新規接続ですか？**」が表示されます。
2. 一度接続を行ったスマートフォンと接続をするので、**F2**  ボタンを押します。



3. ディスプレーのポップアップメッセージが消え、スマートフォンとの接続待ち状態になります。
4. 端末の《設定》→《Wi-Fi》を選択します。
5. 端末のWi-FiをオンにするとWi-Fi機器のSSID一覧が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。
6. 本機とスマートフォンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケータが点灯になります。

メモ

上記の端末の操作説明は、スマートフォンの設定例です。詳しくは、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

第9章 Wi-Fiを使う

接続情報を確認する

1. Wi-Fi 画面を表示中にF2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って **情報** 項目を選択し、F4 ✓ ボタンを押してパラメーターを選択（反転表示）します。



2. F4 ✓ ボタンを押して、**情報** 画面を表示します。



「SSID」と「パスワード」の情報が表示されます。

「SSID」は、Wi-Fiネットワーク上で本機を識別するための名前です。

「パスワード」は、本機とWi-Fi接続するときに必要となるパスワードです。

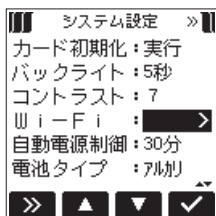
メモ

パスワードは、F4 ✓ ボタンを押すことにより変更可能です。

本機と外部機器（スマートフォン／タブレット／パソコン）をルーターを経由してWi-Fi接続する（ルーター経由モード）

Wi-Fiモードをルーター経由に設定する

1. **HOME/MENU** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. F1 >> ボタンを押して、**システム設定** ページを表示します。
3. F2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って、**Wi-Fi** 項目のパラメーターを選択（反転表示）します。



4. F4 ✓ ボタンを押して、**Wi-Fi** 画面を表示します。
5. F2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って、**モード** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、F4 ✓ ボタンを押します。

6. F2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って、Wi-Fiモードを「ルーター経由」に設定します。

選択肢: 直接接続（初期値）、ルーター経由



本機と外部ルーターを接続する

1. Wi-Fi 画面を表示中にF2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って **リスト** 項目を選択し、F4 ✓ ボタンを押してパラメーターを選択（反転表示）します。



2. F4 ✓ ボタンを押して、**SSIDリスト** 画面を表示します。



3. SSIDリスト 画面に表示されたリストから、接続したいルーターをF2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って選択（反転表示）し、F4 ✓ ボタンを押して設定します。
4. SSID 項目に選択されたSSIDが表示されます。



メモ

SSIDは、Wi-Fi 画面の SSID 項目で直接入力することも可能です。

その際は、SSID 項目で◀◀ボタンまたは▶▶ボタンでカーソルを移動し、F2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って文字を設定します。

F4 ✓ ボタンを押して、SSIDを確定します。

5. Wi-Fi 画面を表示中にF2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って **パスワード** 項目を選択（反転表示）し、F4 ✓ ボタンを押します。

6. パスワード項目で◀◀ボタンまたは▶▶ボタンでカーソルを移動し、F2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使ってルーターのパスワード（暗号キー）を入力します。
F4 ✓ ボタンを押して、ルーターのパスワード（暗号キー）を確定します。
- 以下のメッセージが表示されたら、ルーターとの接続成功です。本体のWi-Fiインジケーターが点灯します。



- 以下のメッセージが表示されたら、ルーターとの接続失敗です。正しいパスワードを入力してください。



メモ

- ルーターのパスワード（暗号キー）は多くの場合、ルーター本体のラベルや取扱説明書などに記載してあります。
- 接続に成功したルーターに関しては、2回目以降は本体のWi-Fi ボタンを押すだけで、再接続が可能です。また、最後に接続した2件までのパスワードは本体に記憶されます。

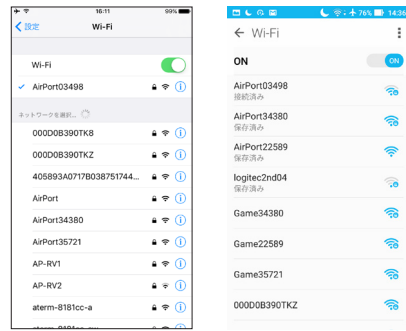
スマートフォンなどと外部ルーターを接続する

1. 端末の《設定》→《Wi-Fi》を選択します。



[iOS 端末の表示例] [Android 端末の表示例]

2. 端末のWi-FiをオンにするとWi-Fi機器のSSID一覧が表示されますので、使用する外部ルーターのSSIDを選択してください。

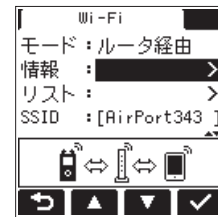


[iOS 端末の表示例] [Android 端末の表示例]

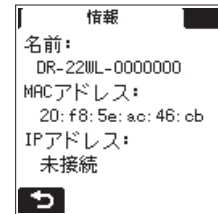
3. 使用する外部ルーターのパスワードを入力します。
スマートフォンと外部ルーターのWi-Fi接続が確立されます。

Wi-Fi接続情報を確認する

1. Wi-Fi 画面を表示中にF2 ▲ ボタンとF3 ▼ ボタンを使って情報項目を選択し、F4 ✓ ボタンを押してパラメーターを選択（反転表示）します。



2. F4 ✓ ボタンを押して、情報画面を表示します。



「名前」、「MACアドレス」と「IPアドレス」の情報が表示されます。「名前」は、DR CONTROLで本機を操作するときを選択していただく名前です。「MACアドレス」は、本機に割り当てられているMACアドレスを表示します。「IPアドレス」は、ルーターから割り当てられたWi-Fiネットワーク上の番号です。

第9章 Wi-Fiを使う

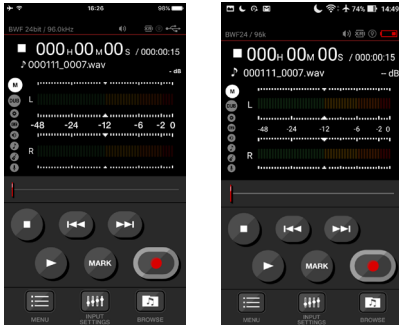
DR CONTROLを起動する

1. Wi-Fi接続が完了したら、スマートフォンなどにインストール済のDR CONTROLを起動してください。

メモ

DR CONTROLは、常に最新のバージョンをご使用ください。

2. アプリケーションを起動させると以下のような画面が表示され、本機のリモート操作を行うことができます。



[iOS 端末の表示例] [Android 端末の表示例]

ルーター経由モード時に、複数台のDR-44WL / DR-22WLが同じルーターに接続されている場合

1. アプリケーションを起動させ、しばらくすると《DR List》が表示されます。
コントロールするDR-22WLを選択してください。



[iOS 端末の表示例] [Android 端末の表示例]

2. 《DR is not found》と表示された場合は、《OK》ボタンを押したあとに《CONNECT》ボタンを押して、再度リストを取得してください



[iOS 端末の表示例] [Android 端末の表示例]

端末の詳細な説明は、お使いのスマートフォンの取扱説明書をご覧ください。

《DR CONTROL》アプリケーションの詳細な説明は、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードすることができる「DR CONTROL 取扱説明書」をご参照ください。

本機とパソコンをWi-Fiで接続する

無料の専用ソフトウェア(TASCAM DR FILE TRANSFER)を使って、本体をパソコンにファイルの転送をすることができます。録音したファイルの転送をWi-Fi経由で行うことができます。

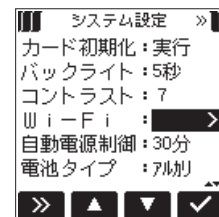
専用ソフトウェア (TASCAM DR FILE TRANSFER) の入手・インストール方法

1. パソコンをインターネットに接続してください。
2. TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードし、インストールを実施してください。

DR-22WLとパソコンを直接Wi-Fi接続する (直接接続モード)

Wi-Fiモードを直接接続に設定する

1. **MENU** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1** **▶▶** ボタンを押して、システム設定 ページを表示します。
3. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って、Wi-Fi 項目のパラメーターを選択 (反転表示) します。



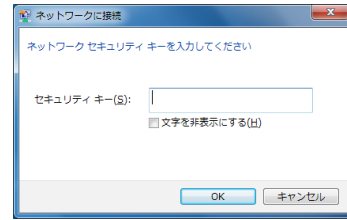
4. **F4** **✓** ボタンを押して、自動電源制御 画面を表示します。
5. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って、モード 項目のパラメーターを選択 (反転表示) し、**F4** **✓** ボタンを押します。
6. **F2** **▲** ボタンと**F3** **▼** ボタンを使って、Wi-Fiモードを「直接接続」に設定します。

選択肢: 直接接続 (初期値)、ルーター経由



7. DR本体のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケータを点滅させます。
ディスプレイに新規接続であるかどうかを問うポップアップメッセージ「新規接続ですか?」が表示されます。

8. はじめての接続なので、**F3** ボタンを押します。



[Windows 画面]

9. ディスプレーにSSIDとパスワードが表示されます。



パソコンにパスワード入力画面が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているパスワードを入力してください。



[Mac 画面]

メモ

SSIDとは、無線LANにおけるアクセスポイント（無線LAN機器）の名称です。

10. パソコンのタスクバー／メニューバー（Windows / Mac）の無線接続アイコンをクリックすることで、ワイヤレスネットワークの一覧が表示されます。



[Windows 画面]



[Mac 画面]

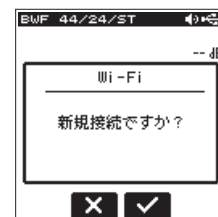
11. 本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。
 12. パソコンにセキュリティーキー入力画面が表示されますので、本機のディスプレイに表示されているパスワードを入力してください。

13. 本機とパソコンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケーターが点灯になります。

本機とパソコンをWi-Fi接続する場合（2回目以降）

一度接続を行った本機とパソコンにおいては、2回目以降はSSIDを選択するだけで接続することができます。

1. 本機のWi-Fiボタンを押して、Wi-Fiインジケーターを点滅させます。
ディスプレイに新規接続であるかどうかを問うポップアップメッセージ「新規接続ですか?」が表示されます。
2. 一度接続を行ったパソコンと接続をするので、**F2** ボタンを押します。



3. ディスプレーのポップアップメッセージが消え、パソコンとの接続待ち状態になります。
4. パソコンのタスクバー／メニューバー（Windows / Mac）の無線接続アイコンをクリックすることで、ワイヤレスネットワークの一覧が表示されます。
5. 本機のディスプレイに表示されているSSIDを選択してください。
6. 本機とパソコンとのWi-Fi接続が確立され、本機のWi-Fiインジケーターが点灯になります。

ヒント

ルーター経由モードを使用したDR-22WLとパソコンをルーター経由でWi-Fi接続する方法、その他ソフトウェアの詳細な説明は、TASCAMのウェブサイト (<https://tascam.jp/jp/>) からダウンロードすることができる「TASCAM DR FILE TRANSFER 取扱説明書」をご参照ください。

第10章 各種設定および情報表示

情報を見る（インフォメーション）

メニュー画面の **インフォメーション** ページで、本機の各種情報の画面を見ることができます。

以下の手順で各情報画面を表示します。

1. **HOME/MENU/■** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1 >>** ボタンを使って、**インフォメーション** ページを表示します。



3. **F2 ▲** ボタンと **F3 ▼** ボタンを使って情報を見る項目のパラメーターを選択（反転表示）を選択し、**F4 ✓** ボタンを押します。

下記の各情報画面が表示されます。

ファイル情報 画面：

現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示

カード情報 画面：

セットしているmicroSDカードの使用状況を表示

バージョン 画面：

本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示

4. メニュー画面の **インフォメーション** ページに戻るには、**F1 <<** ボタンを押します。

ファイル情報画面（ファイル情報）

ファイル情報 画面では、現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示します。



録音形式

ファイル形式を表示します。

MP3ファイルの場合は、CBR / VBRを表示します。（CBR：固定ビットレート、VBR：可変ビットレート）

サンプル

ファイルのサンプリング周波数を表示します。

ビット／レート

ファイルのビット長（bit）を表示します。

MP3ファイルの場合は、ビットレート（kbps）を表示します。

チャンネル

ファイルの形式（ステレオ／モノラル）を表示します。

容量サイズ

ファイルサイズを表示します。

作成日

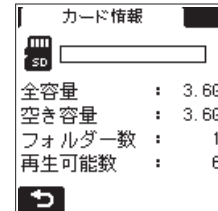
ファイルの日付を表示します。

作成時刻

録音した時間を表示します。

カード情報画面（カード情報）

カード情報 画面では、挿入しているmicroSDカードの使用状況を表示します。



全容量

microSDカードの全容量を表示します。

空き容量

microSDカードの残容量を表示します。

フォルダー数

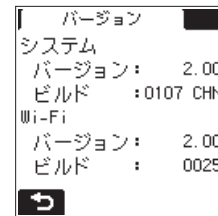
MUSICフォルダー内にあるフォルダー数を表示します。

再生可能数

MUSICフォルダー内にある再生可能なファイル数を表示します。

システム情報画面（バージョン）

バージョン 画面では、本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。



システム

システムファームウェアのバージョン情報を表示します。

Wi-Fi

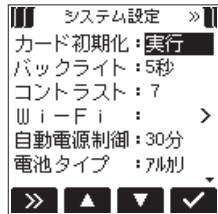
Wi-Fiファームウェアのバージョン情報を表示します。

環境設定（システム設定）

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うためのさまざまな設定、および本機の初期化やmicroSDカードのフォーマットなどを、**システム設定** ページで行います。

以下の手順で **システム設定** ページを表示します。

1. **HOME/MENU** ボタンを押して、メニュー画面を表示します。
2. **F1** ボタンを使って、**システム設定** ページを表示します。



F2 ボタンと **F3** ボタン、および **F4** ボタンを使って、各項目の設定をします。

システム設定 ページの各項目で、以下の設定を行うことができます。

電源のオートパワーセーブ機能の設定

自動電源制御 項目で最後に動作、あるいは操作してから自動的に電源がオフ（スタンバイ状態）になるまでの時間を設定します。

選択肢：切（自動オフしない）、3分、5分、10分、30分（初期値）

バックライトの設定

バックライト 項目で電池駆動のときに、最後に操作してから自動的にバックライトが消灯するまでの時間を設定します。

選択肢：切（消灯）、5秒（初期値）、10秒、15秒、30秒

ディスプレイのコントラスト調節

コントラスト 項目でディスプレイのコントラストを調節します。

選択肢：1 ~ 20（初期値：8）

電池の種類の設定

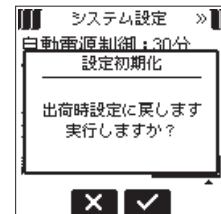
電池タイプ 項目で、使用する電池の種類を設定します。この設定は、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量の識別に使用されます。

選択肢：アルカリ（アルカリ乾電池、初期値）、Ni-MH（ニッケル水素電池）

初期設定に戻す

設定初期化 項目でインシャライズを実行することにより、本機のさまざまな設定を初期設定状態に戻すことができます。

1. **F2** ボタンと **F3** ボタンを使って **設定初期化** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** ボタンを押します。以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。

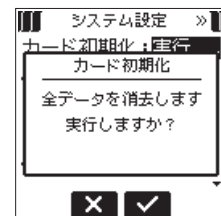


2. **F3** ボタンを押して、インシャライズを実行します。インシャライズしない場合は、**F2** ボタンを押します。

microSDカードをフォーマットする

カード初期化 項目で、microSDカードをフォーマットします。フォーマットを行うと、microSDカード上の全ての音楽ファイルが消去され、**《MUSIC》** フォルダ、**《UTILITY》** フォルダおよび **《dr-1.sys》** が自動生成されます。

1. **F2** ボタンと **F3** ボタンを使って **カード初期化** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** ボタンを押します。
2. **F2** ボタンと **F3** ボタンを使って初期化方法を選択し、**F4** ボタンを押します。
選択肢：クイック、イレース
3. **F4** ボタンを押すと、以下の確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. **F3** ボタンを押して、フォーマットを実行します。フォーマットしない場合は、**F2** ボタンを押します。

メモ

- イレースフォーマットを実行すると、繰り返し使用したことにより、性能が劣化SDカードを復活させる可能性があります。
- イレースフォーマットはメモリーエラーをチェックしながらフォーマットを行うため、クイックフォーマットに比べ、多くの時間がかかります。

注意

フォーマットの実行は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）を使用するか、パソコンとのUSB/バスパワー接続状態で行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。フォーマット中に電池切れになると、正常なフォーマットができない場合があります。

ファイル名の形式を設定する

本機で録音するファイルの名前の形式を設定することができます。

1. **F2** ボタンと**F3** ボタンを使って **ファイル名設定** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** ボタンを押します。
ファイル名設定 画面が表示されます。



2. **◀◀** ボタンと **▶▶** ボタン、**F2** ボタンと**F3** ボタン、および**F4** ボタンを使って、各項目の設定をします。
この画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。
3. メニュー画面の **システム設定** ページに戻るには、**F1** ボタンを押します。

ファイル名の形式

タイプ 項目で、**日付** か **ワード** かを設定します。

選択肢：

日付 (初期値) : 日付をファイル名に付けます。
(例) 140101_0000.wav

ワード : ワード で設定した6文字をファイル名に付けます。
(例) TASCAM_0000.wav

メモ

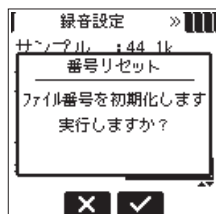
日付は、本体内の時計を基に設定されます。(→ 14ページ「日時を設定する」)

文字 (ワード) の設定

ワード 項目で、**◀◀** ボタンまたは **▶▶** ボタンでカーソルを移動し、**F2** ボタンと**F3** ボタンを使って文字を設定します。
文字は、英数の他に、記号「! # \$ % & ' () + , - . ; = @ [\ ^ _ ` { } ~」が使用可能です。

数字 (番号リセット) の初期化設定

メニュー画面 **録音設定** ページの **番号リセット** 項目のパラメーターを選択（反転表示）し、**F4** ボタンを押して以下の確認メッセージを表示します。



F3 ボタンを押すと、設定された文字に続く数字が **0001** から始まります。

言語を選択する

言語 項目で、ディスプレイに表示される言語を切り換えることができます。

1. **F2** ボタンと**F3** ボタンを使って **言語** 項目を選択（反転表示）し、**F4** ボタンを押します。



2. **F2** ボタンと**F3** ボタンを使って、ディスプレイに表示する言語を設定します。

選択肢

Eng. : 英語で表示
日本語 : 日本語で表示
Fran. : フランス語で表示
Españ : スペイン語語で表示
Deu. : ドイツ語で表示
Ital. : イタリア語で表示
P y c. : ロシア語で表示

3. **F4** ボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



4. **F3** ボタンを押して、言語設定を実行します。
言語選択をしない場合は、**F2** ボタンを押します。

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。

DR-22WLでは、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
電池残量がありません	電池の残量がありません。 電池を交換してください。
分割できません	ファイル分割 実行時に分割位置が適切ではありません。(曲の先頭、曲の最後)
カードエラー	カードを正常に認識できません。カードを交換してください。
カードがいっぱいです	カードの残容量がありません。 不要なファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
MP3非対応の機能です	MP3ファイルの分割はできません。
同名ファイルがあります	ファイル分割 により作成されるファイルと同じファイル名のファイルが同じフォルダー内にすでに存在します。ファイル分割 を行うとファイル名の末尾に「a」または「b」が追加されます。ファイル分割 を行う前にパソコンと接続し、ファイル名を変更してください。
ファイル総数制限に到達	フォルダーとファイルの総数が制限値(5000個)を超えました。 不要なフォルダーやファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
ファイル名が不正です	ファイル分割 によりファイル名の文字数が200文字を超えました。ファイル分割 を行うとファイル名の末尾に「a」または「b」が追加されます。ファイル分割 を行う前にパソコンと接続し、198文字以下のファイル名に変更してください。
ファイルが見つかりません	ファイルが見つからないか、ファイルが壊れている可能性があります。対象のファイルを確認してください。
ファイルがありません システムを再構築します	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。このメッセージが表示されている状態でPLAYボタンを押すと、システムファイルが作られます。
ファイルが保護されています	リードオンリーファイルのため、削除できません。
フォーマットエラー SDを初期化します	microSDカードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。このメッセージは、USB接続したパソコンでフォーマットした場合や未フォーマットのカードを挿入した場合にも表示されます。 フォーマットは、必ずDR-22WL本体で行ってください。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でF4 <input checked="" type="checkbox"/> ボタンを押すと、フォーマットが実行されます。 フォーマットが実行されるとmicroSDカード内のデータは、全て消去されます。
SDカードエラー 交換してください	カードが正常でない可能性があります。 カードを交換してください。

メッセージ	内容と対処方法
システムファイルエラー システムを再構築します	本機を使用するために必要なシステムファイルが正常ではありません。このメッセージが表示されている状態でF4 <input checked="" type="checkbox"/> ボタンを押すと、新しいシステムファイルが作られます。
間隔が短かすぎます	IN点(始点)とOUT点(終点)の間隔が短すぎます。1秒以上空けて設定してください。
電池残量が少ないため Wi-Fiをオフにします	電池残量が少なくWi-Fi機能が使用できません。 新しい電池に交換してください。
録音時間の制限に到達	ファイルのサイズが指定のサイズを超えました。あるいはフォルダーとファイルの総数が制限値(5000個)の時に録音時間が24時間を超えました。
HBRエラー SDを初期化します	カードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態でF4 <input checked="" type="checkbox"/> ボタンを押すと、フォーマットが実行されます。 フォーマットが実行されるとmicroSDカード内のデータは、全て消去されます。
ファイルがありません	再生可能なファイルがありません。
カードがありません	カードが挿入されていません。
動作対象外ファイル	ファイル形式がサポート対象外です。取り扱い可能なファイル形式については、39ページ「第8章 パソコンと接続する」をご覧ください。
書き込み速度不足です	カードへの書き込みが間に合いませんでした。ファイルをパソコンへバックアップの上、フォーマットを実行してください。
保存できません	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れ直してください。
Device Error	電源を切ることができない場合は、電池や別売の専用ACアダプター(TASCAM PS-P515U)を取り外す、またはUSBバスパワー駆動時はUSBケーブルを外してください。
ファイルエラー発生	これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談ください。
ファイルが見つかりません	
再生エラー	
書き込みに失敗しました	
システムエラー	
システムエラー <small>##</small>	(## は数字が入ります)

第12章 トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）にご連絡ください。

電源が入らない。

- 電池が消耗していませんか？
- 電池の⊕、⊖を間違っってセットしていませんか？
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P520E）の電源プラグおよびUSBコネクタがしっかりと差し込まれていますか？
- パソコンとUSBバスパワー接続しているときに、USBケーブルがしっかりと差し込まれていますか？
- パソコンとUSBバスパワー接続しているときに、USBハブを使用していませんか？

電源が自動的に切れてしまう。

- オートパワーセーブ機能が設定されていませんか？（→ 47ページ「電源のオートパワーセーブ機能の設定」）
 - 本機は欧州待機時電力規制（ErP）に対応しているため、ACアダプター・電池使用時にかかわらずオートパワーセーブ機能が動作します。オートパワーセーブ機能を使用したくないときは「OFF」に設定してください（工場出荷時には「30分」に設定されています）。

本体で操作できない。

- HOLD/  /  スイッチが「HOLD」にセットされていませんか？
- USB接続になっていませんか？

microSDカードを認識しない。

- microSDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。

再生できない。

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。
- MP3ファイルの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。

内蔵スピーカーから音が出ない。

- ヘッドホンをつないでいませんか？
- スピーカー 項目が「切」になっていませんか？
- 本機が録音中、または録音待機中になっていませんか？

音が出ない。

- モニターシステムは、きちんと接続されていますか？
- モニターシステムの音量が最小になっていませんか？
- 本機の出カレベル設定が最小になっていませんか？

録音できない。

- 接続をもう一度確認してください。
- 入力設定をもう一度確認してください。
- 録音レベルが低くなっていませんか？
- microSDカード容量がいっぱいになっていませんか？
- ファイル数が最大数に達していませんか？

入力レベルが低い。

- 入力レベル設定が低くなっていませんか？
- 接続した外部機器の出カレベルが低くなっていませんか？

録音しようとする音が歪んで聴こえる。

- 入力レベルの設定が大きすぎませんか？
- リバースがかかかっていませんか？

再生音が不自然に聴こえる。

- 再生のスピードを変えていませんか？
- レベルコントロール機能が有効になっていませんか？
- リバースがかかかっていませんか？

ファイルが消去できない。

- パソコンで読み取り専用を設定したファイルをコピーしたものを消去しようとしていませんか？

パソコン上に本機のファイルが表示されない。

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？
- USBハブを使っていませんか？
- 本機が録音中、または録音待機中になっていませんか？

Wi-Fi接続ができない、あるいは、通信が途切れる。

- Wi-Fi機器の電源が入っているか、Wi-Fiがオンになっているか確認してください。
- Wi-Fi機器との距離が離れすぎていませんか？
あるいは、間に壁や障害物などでさえぎられていませんか？
Wi-Fi機器が本体の後面側にある場合、本機自身でさえぎっていることも考えられます。
Wi-Fi機器や本機の位置を変えてください。
- 本機の電源を切り、再度本機の電源をオンにしてください。
- Wi-Fi機器の「DR-22WL」の登録を解除し「Wi-Fi機器との接続を行う」の操作を行ってください。
- DR CONTROLアプリケーションを再起動してください。
- ルーター経由モードを使用している場合は
 - Wi-Fiルーターに接続するその他のデバイスを解放する
 - Wi-Fiルーターの設置場所を変えてみる

定格

記録メディア

microSDカード (64MB ~ 2GB)
 microSDHCカード (4GB ~ 32GB)
 microSDXCカード (48GB ~ 128GB)

録音再生フォーマット

BWF : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット
 WAV : 44.1k/48k/96kHz, 16/24ビット
 MP3 : 44.1k/48kHz, 32k/64k/96k/128k/192k/256k
 /320kbps

チャンネル数

2チャンネル (ステレオ)

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格**MIC/EXT IN 端子 (プラグインパワー対応)**

コネクタ : 1/8" (3.5mm) ステレオミニジャック
 入力インピーダンス : 25k Ω
 基準入力レベル : -20dBV
 最大入力レベル : -4dBV

 Ω /LINE OUT 端子

コネクタ : 1/8" (3.5mm) ステレオミニジャック
 出力インピーダンス : 12 Ω
 基準出力レベル : -14dBV (10k Ω 負荷時)
 最大出力レベル : +2dBV (10k Ω 負荷時)
 最大出力 : 20mW+20mW (32 Ω 負荷時)

内蔵スピーカー

0.3W (モノラル)

コントロール入出力定格**USB 端子**

コネクタ : Micro-B タイプ
 フォーマット : USB2.0 HIGH SPEED マスストレージ
 ラス

オーディオ性能

周波数特性

20-20kHz +1/-3dB
 (EXT IN to LINE OUT, Fs44.1kHz, JEITA)
 20-22kHz +1/-3dB
 (EXT IN to LINE OUT, Fs48kHz, JEITA)
 20-40kHz +1/-3dB
 (EXT IN to LINE OUT, Fs96kHz, JEITA)

歪率

0.05%以下
 (EXT IN to LINE OUT, Fs44.1k/48k/96kHz, JEITA)

S/N 比

92dB以上 (EXT IN to LINE OUT, Fs44.1k/48k/96kHz,
 JEITA)
 注) JEITA : JEITA CP-2150準拠

Wi-Fi**無線規格**

IEEE 802.11b/g/n準拠 (2.4GHzのみ)

無線通信モード**直接接続モード**

簡易アクセスポイント (Limited AP)

ルーター経由モード

インフラストラクチャー (Station)

セキュリティ

WPA2-PSK (WPS2.0対応)

第13章 仕様

一般

電源

単3形電池2本（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池）
パソコンからのUSBバスパワー
専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U、別売）

消費電流（USBバスパワー）

0.5A（最大時）

電池持続時間（連続使用時）

● アルカリ乾電池（EVOLTA）使用時

フォーマット	持続時間	備考
WAV、96kHz、24ビットで録音	約9時間	内蔵ステレオマイク入力時
WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約17.5時間	内蔵ステレオマイク入力時
MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約12時間	内蔵ステレオマイク入力時
MP3、48kHz、320kbpsで録音	約11時間	内蔵ステレオマイク入力時
WAV、96kHz、24ビットで再生	約11時間	ヘッドホン使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約13時間	ヘッドホン使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約11時間	ヘッドホン使用時
MP3、48kHz、320kbpsで再生	約11時間	ヘッドホン使用時

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

● ニッケル水素電池（eneloop）使用時

フォーマット	持続時間	備考
WAV、96kHz、24ビットで録音	約9時間	内蔵ステレオマイク入力時
WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約13.5時間	内蔵ステレオマイク入力時
MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約12時間	内蔵ステレオマイク入力時
MP3、48kHz、320kbpsで録音	約11時間	内蔵ステレオマイク入力時
WAV、96kHz、24ビットで再生	約12時間	ヘッドホン使用時
WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約13.5時間	ヘッドホン使用時
MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約10時間	ヘッドホン使用時
MP3、48kHz、320kbpsで再生	約10時間	ヘッドホン使用時

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

メモ

電池持続時間（連続動作時）は、お使いの記録メディアにより記載された値から変動することがあります。

外形寸法

52.2 x 155 x 36.6mm（幅 x 高さ x 奥行き）

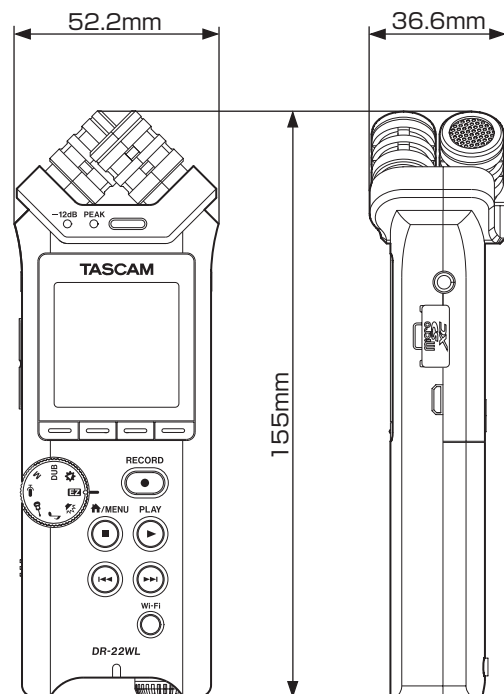
質量

170g / 123g（電池を含む / 電池を含まず）

動作温度

0 ~ 40℃

寸法図



- リファレンスマニュアルのイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47



0570-000-809

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、10:00～12:00 / 13:00～17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：042-356-9137 / FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858



0570-000-501

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

受付時間は、9:30～17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

- ナビダイヤルがご利用いただけない場合

電話：04-2901-1033 / FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

<https://tascam.jp/jp/>